

3学年シラバス 目次

学校シラバス.....
3学年(Ⅱコース)シラバス.....

【Ⅱコース共通】

現代文.....
体育.....
コミュニケーション英語Ⅲ.....
英語表現Ⅱ・演習.....
情報の科学.....
総合探究.....

【Ⅱコース文系】

古典.....
世界史B.....
政治・経済.....
数学Ⅱ・B.....
生物基礎.....
化学.....
倫理.....

【Ⅱコース理系】

古典.....
数学Ⅲ・B.....
倫理.....
物理.....
化学.....
生物.....

学校シラバス

校訓

- 1 忠恕の心：まごころを持って相手の心をおもいやること。
- 2 自主創造：自主的に学び、考え、広く世界的な視野を持つと共に、新しい自分、心豊かな自分を創造すること。
- 3 真剣力行：強い意志を持ち、目的に向かって全力を尽くすこと。

本年度の努力目標

- 1 奉仕と思いやりの心を持つ
- 2 新校舎を大切に学ぼう
- 3 対策をして楽しもう

取り組み項目	具体的な内容
キャリア教育, 教科指導を計画的に推進し, 学力の定着と向上を図り, 生徒の進路目標を達成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 シラバスを作成し, 生徒・保護者へ提示する。 2 進路ガイダンス等の各種説明会を通じて進路情報を提示し, 幅広いキャリアビジョンと確かな学力を身に付けた上で進路を決定する意識を構築する。 3 卒業前の3年生に, 学外からの出前講座, 教員による校内講座を行い, 幅広い教養を身に付ける。 4 日本大学工学部との高大連携事業を展開する。
国際理解教育を推進し, グローバル化社会に対応できる力を身に付ける。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ネイティブ教員によるTT授業で, 英語の4技能の育成を図る。 2 課外講座で, 英会話講座を実施して語学力の育成を図る。 3 語学力育成とともに国際理解を深めることを目的に, ケンブリッジ大学・オーストラリア海外語学研修を実施する。(令和4年度は派遣中止)
自主的・主体的な学習への取り組みを通して, 社会に貢献できる人材を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 自学室・自習室・サポート室を活用し, 生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。 2 ICTを利用したアクティブ・ラーニング授業を実践する。 3 基礎学力到達度テスト対策に, 春期特別授業を実施する。 4 大学進学に向けて, 各種模擬試験の活用と夏期進学補習の充実を図る。 5 図書館を利用して, 生徒が自ら問題解決の糸口を見つけ出す姿勢を育成する。
学校行事や課外活動を通して, 人間的成長を促し, 円満な人格形成を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 1 修学旅行を通して, 団体行動や平和について学習する。 2 部活動を通して, 心身を鍛え自主性や協調性を育成する。 3 文化祭などの学校行事を通して, 自主性や創造性, 協働性を身に付けるとともに, 仲間との達成感を共有する。 4 芸術鑑賞会を通して, 広く芸術に触れ, 親しむ心を育成する。 5 身だしなみ向上週間の活動を通じて, 自律心を育成する。
学校の安全管理を徹底するとともに, 安全教育を推進する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校安全計画, 防災マニュアル(安全管理マニュアル・衛生管理マニュアル・防火管理マニュアル)を実践する。 2 火災や地震を想定した避難訓練, および救急救命講習会や避難器具使用講習会等を実施する。 3 地歴公民や保健体育の授業, ホームルーム活動を通じて, 安全や健康について学習する。 4 交通安全教室, スマホ安全教室等を実施し, 生徒の危機管理意識を育成する。

◇年間行事計画

Ⅱ コース3 学年

	指導内容・行事	指導のねらい
4月	二者面談	・生徒間、教員との信頼関係の構築
	基礎学力到達度テスト	・基礎学力の定着、自己分析
	進路希望調査	・自己理解と目標設定
	登校指導	・基本的生活習慣の確立
	防災避難・通報消火訓練	・危機管理意識の醸成
5月	ベネッセ総合学力テスト	・志望校までの距離を知る ・学習活動の振り返りと学習課題の設定
	学級懇談会	・教員—保護者の信頼関係の構築
	校内体育大会（運動会）	・健やかな心身の育成 ・良好な人間関係の構築
	授業参観ウィーク	・保護者への情報公開 ・家庭との連携強化
	身だしなみ向上週間	・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
6月	1 学期中間試験	・計画的学習習慣の確立 ・既習事項の定着度の測定
	英検	・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ
	ベネッセ共通テスト模試	・基礎学力の定着度を測る ・弱点、苦手分野の把握 ・学習計画の立案、課題の設定
	身だしなみ向上週間	・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	文化講演会	・豊かな感性の育成 ・広い視野の獲得
7月	数検、漢検	・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ
	1 学期期末試験	・計画的学習習慣の確立 ・既習事項の定着度の測定
	アカシヤ祭	・自己理解を深める ・創造力、表現力の伸長 ・他者と協働する力を育む
	ベネッセ総合学力テスト	・志望校までの距離を知る ・学習活動の振り返りと学習課題の設定
	進学説明会	・入試に関する情報の収集 ・受験に向けての意識高揚
	三者面談	・家庭との連携 ・信頼関係の構築

		<ul style="list-style-type: none"> ・現状の理解と目標の設定
	夏期進学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立
	勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考力の伸長 ・既習事項の理解を深める ・学年を越えた交友関係の構築
8月	夏期進学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立
	夏期進学特別講座	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・弱点、苦手分野の克服
	全統共通テスト模試	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた課題設定 ・志望校検討と合格への課題設定
	小論文模試	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力、読解力、文章を書く力の伸長
9月	進路希望調査	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の確認
	服装頭髪指導	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を高める
	全統記述模試	<ul style="list-style-type: none"> ・応用力、実践力の測定 ・記述力を高める
	ベネッセ駿台共通テスト模試	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた課題設定 ・志望校検討と合格への課題設定
	授業参観ウィーク	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報公開 ・家庭との連携強化
	基礎学力到達度テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着、自己分析
	校内体育大会（運動会）	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな心身の育成 ・良好な人間関係の構築
10月	2学期中間試験	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的、計画的学習への取り組み ・学習活動の成果を測る
	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	ベネッセ駿台記述模試	<ul style="list-style-type: none"> ・応用力、実践力を測る ・記述力を高める
	芸術鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> ・文化、芸術への造詣を深める
	ベネッセ駿台共通テスト模試	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた課題設定 ・志望校検討と合格への課題設定
	英検、漢検	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ
11月	ベネッセ駿台共通テスト模試	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた課題設定 ・志望校検討と合格への課題設定
	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	二者面談	<ul style="list-style-type: none"> ・志望校の検討 ・志望校合格への課題設定

12月	2学期期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的,計画的学習への取り組み ・学習活動の成果を測る
	校内大学入学共通テストプレ	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた実践演習 ・志望校合格への課題設定
	特別授業	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた実践演習 ・志望校合格に向けた実践演習
	出願校検討	<ul style="list-style-type: none"> ・志望校の検討 ・志望校合格への課題設定
	冬期進学特別講座	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト(入試)に向けた総仕上げ
1月	大学入学共通テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の集大成!
	三者面談	<ul style="list-style-type: none"> ・出願校の検討および決定
2月	個別試験対策特別講座	<ul style="list-style-type: none"> ・私大入試、国公立大2次試験に向け学力を高める。
3月	卒業証書授与式	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の振り返り ・これからの目標の確認

科目	単位数	対象学年	対象クラス
現代文	3	3	Ⅱコース

教科書名 現代文B(数研)

副教材名 プログレス現代文総演習 発展編(いいずな書店) ベーシックマスター国語 現代文(Z会)
現代文 共通テスト+センター試験国語過去問題(尚文出版)
同音同訓漢字帳(いいずな書店) クリアカラー国語便覧(数研出版)

1. 科目目標

1・2年生の段階で身に付けた基礎的な読解力を基に、演習の量を増やすことによって大学入試共通テストおよび2次試験・私大入試に対応した実践力を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ～ 7	1. 【評論】(教科書) 2. 【小説】(教科書) 3. 「プログレス現代文総演習」 4. 「ベーシックマスター国語 現代文」 5. 模試事前指導および解説 【定期試験】 ①同音同訓漢字帳 ②読解問題	[目標] 論理的な文章と文学的な文章の読解法を再確認する。 [内容] ①教科書(評論文)を利用して、主題の把握、論拠の整理、論理展開の整理方法を学ぶ。 ②教科書(小説)を利用して、登場人物の心情表現、比喩表現、表現効果等を説明する力を養う。 ③「プログレス現代文総演習」を活用し、要約の仕方を学ぶ。 ④「ベーシックマスター国語」を活用し、共通テストの解法を学ぶ。 ⑤模試を利用し、実践力を身につける。
		【課題・提出物】 適宜提出物を課す。	
		【第1学期の評価方法】 定期テストの平均点×80%+平常点(授業態度・提出物)20%	

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 ～ 10	《演習》 「共通テスト+センター試験国語過去問題」を利用	[目標] 論理的な文章と文学的な文章の読解法を再確認する。 [内容] 大学入学共通テスト予想問題や模試を利用し、実践力を身につける。
	10 ～ 12	【定期試験】 ①同音同訓漢字帳 ②読解問題	

	【課題・提出物】 適宜課題を課す。	
	【第2学期の評価方法】 定期テストの平均点×80%+平常点20%	
	月	学習内容
3 学期	1	【大学入学共通テストまで】 《演習》 「大学入学共通テスト問題集」を利用
	2	【大学入学共通テスト後】※文系のみ 《演習》
		学習のねらい
		〔目標〕 問題演習を通じて実践力の養成を図る。 〔内容〕 二次試験や私大入試に向けた演習と解説を授業とする。
	【課題・提出物】 適宜提出物を課す	
	【第3学期の評価方法】 定期テストの平均点×80%+平常点(授業態度・提出物)20%	
【年間の学習状況の評価方法】 提出物の提出状況、授業態度などによる自学自習習慣		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	文章を読む力を進んで高めるとともに、作品についての理解や関心を深めようとしている。	授業態度・各種試験
思考・判断	文章を読んで思想や感情などを的確に捉え、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度・各種試験
技能・表現	相手や目的・意図に応じ、筋道を立てて文章を書いて、自分の考えを豊かにしている。	各種テスト・提出物
知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	各種テスト・提出物

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

1年次に確認した「3つの力（類比・対比・因果）」を、2年次には教科書・模試等で活用し、解法として定着させてきた。設問に対してどのようなプロセスで解答を導き出すか、論理的に文章を捉えることができるかが大事である。文章が変わったとしても、きちんと論理的思考力、「3つの力」が身につけていれば対応できる。3年次には演習が多くなるが、ただ量をこなせばよいというのではなく、解答のプロセスを言葉で説明できるようにしてから、多くの文章に取り組むようにしてほしい。また、現代文で大切なのは復習である。模試等は解いたら終わりではなく、必ず間違えた問題を解き直し、言葉で説明できるようになるまで復習しよう。

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
体育	3	3	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育
 副教材名 現代高等保健体育ノート

1. 教科目標

- | |
|--|
| <p>(1) 運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの知識・技能を身につける。</p> <p>(2) 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。</p> |
|--|

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	集団行動 ① 挨拶・集合・体形 ② 方向変換・列の増減 体づくりの運動 ① 体ほぐしの運動 ② 体力を高める運動	集団の一員として迅速に、かつ安全に行動する。 運動の楽しさ、心地よさを味わい、自他の心身の状態に気付きながら、運動によって心身ともに良好な状態にする。
	5	ソフトテニス	基礎的な技術を身につけ、ソフトテニスの特性に合った、ゲームを中心とした内容を主体的に進めるようにする。
	6	① オリエンテーション	フォアハンド、ロブを重点に習得させ、ラリー(乱打)ができるようにする。
	7	② グランドストローク (フォア・バック・ロブ)	サーブ&ボレーができるようにする。
		③ ボレー・スマッシュ	サーブが狙った場所へ打てるようにする。
		④ サービス	生徒の技量に合わせた内容で試合(簡易ゲーム含)を実施する。
		⑤ ルール	実施時間数に合わせ種目を選択する。
		⑥ ゲーム(簡易ゲーム・ダブルス)	生涯スポーツの選択肢としてソフトテニスも含まれるような基礎的知識、技術論を習得する。
		スポーツテスト(新体力テスト)	
		体育理論 ソフトテニスの特性・ルール・試合運営などを学ぶ	
【課題・提出物】 期末試験前後にソフトテニスに関するレポート・小テストを実施する。			
【第1学期の評価方法】			
1. 実技試験の成績(50%)			
①ソフトテニスに関する基礎技術を実施する。(グランドストローク、スマッシュ、サービス)			

	<p>②スポーツテスト(新体力テスト)(10%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50m走、持久走、ハンドボール投げ、反復横とび、長座体前屈、握力、上体起こし、立ち幅跳び <p>※実施時間数によって上記種目から選択する。</p> <p>2. 総合評価(平常点)(40%)</p> <p>①学習課題、および学習態度の平常点</p>
--	---

	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	<p>体づくりの運動</p> <p>① 体ほぐしの運動</p> <p>② 体力を高める運動</p>	<p>長期休業後の体力回復、怪我、病気等の予防を目的とする。特に柔軟・心肺機能の向上を目的とする。</p>	
	10	<p>選択種目</p>	<p>今まで学んできた球技を中心とした種目を、競技レベルに合わせた内容で、生徒が主体的となって授業を展開する。</p>	
	11	<p>サッカー・バレーボール・バスケットボール等</p>	<p>生涯スポーツにつなげられるよう、多種にわたる種目を選択、実施する。</p>	
	12	<p>・ゲーム・簡易ゲーム形式中心で実施</p> <p>体育理論</p> <p>・実施する種目のルール・技術の知識の習得</p>	<p>実施する種目ごとに基礎的スキル、ルールについて知識を習得する。</p>	
<p>【課題・提出物】 期末試験前後に選択種目内から選び、レポート・小テストを実施する。</p>				
<p>【第2学期の評価方法】</p> <p>1. 実技試験の成績(60%)</p> <p>①主とする実施種目の過去のスキル評価表を基に評価する。</p> <p>注意：選択種目等により評価の違いが出ないように、教科会で審議の上、内容を決定する。</p> <p>2. 総合評価(平常点)(40%)</p> <p>①学習課題、および学習態度の平常点</p>				
	月	学習内容	学習のねらい	
3 学 期	1	<p>選択種目</p>	<p>授業を通じて仲間との協力、協調、楽しさや喜びを会得する。</p> <p>種目のルール、試合運営を学び、仲間と協力してゲームを進められるようにする。</p>	
	<p>【課題・提出物】 なし</p>			
	<p>【第3学期の評価方法】</p> <p>1. 実技試験の成績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験は実施しない。(特別授業、実施時間数が少ないため) <p>2. 総合評価(平常点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習態度等に著しい変化がないかぎり、2学期までの総合評価を参照する。 			

【年間の学習状況の評価方法】

1 学期末と 2 学期末に進学用の仮評定を行う。
 学年末評定は 1 学期・2 学期・3 学期の実技の平均（60%）
 学習課題、および学習態度の平常点（40%）
 以上を総合的に判断して評価する。

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	欠席が少なく、授業への積極的参加ができる。 安全に配慮し主体的に取り組むことができる。 多様性を理解し仲間と協力することができる。 健康・安全に配慮した服装でできる。	観察
思考・判断	自己や仲間の状況に応じて体力向上を目的とした運動を継続できるような計画が工夫できる。 課題解決のために身に着けた技能を生かすことができる。	観察
技能・表現	各運動の特性に応じ勝敗を競い合う、攻防が展開できる。 実施する種目の特性に応じ段階的な技能を身につけ、自分が表現したいことができる。	実技テスト 観察
知識・理解	選択した運動の技術（技）の名称やルールを学び、主体的に試合をすすめることができる。 簡易ゲーム、ミニゲームを運営し、審判などでゲームを進めることができる。	小テスト 観察

4. 学習サポート

実技科目の特性上、基本は授業内で実施するが、必要性や状況に応じて対応をする。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
コミュニケーション英語Ⅲ	4	3	Ⅱコース

教科書名 改訂版 POLESTAR Ⅲ English Communication (数研出版)
 副教材名 STARTING LINE はじめての大学入学共通テスト(いいずな書店)
2023 共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 英語リーディング(ラーズ)
駿台共通テスト対策過去問題集(駿台文庫)
NEO 現代を見る(いいずな書店)
英単語ターゲット1400(旺文社)

1. 科目目標

- | |
|---|
| <p>①英文を読んで、各問いの情報が本文中のどこに隠れているかを素早く見つけられるようにする。</p> <p>②速読・精読で英文を正確に読み、さらに多読を行うことでさまざまな長文を読解する。</p> <p>③大学入学共通テスト及び個別試験に対応できる読解力を身に付ける。</p> |
|---|

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	○Lesson1 The Future of Nursing-Care Robot 高齢者や体の不自由な人の手伝いをする 介護ロボット	高齢化社会における介護ロボットの重要性やその 問題点について学習する。 【文法】進行形の受動態・不定詞の受動態・原形不 定詞を身につける。
	5	○Lesson2 Making English the Official Language in the Office 英語を社内公用語化した日本の企業	英語を社内公用語にした会社に関する英文を読み、 その利点・問題点について理解する。 【文法】無生物主語構文・関係詞について身につけ る。
	1 学期中間試験		
	6	○Lesson 3 An Appalling Waste of Food 世界における食料廃棄 ○Lesson 4 Mastering the Art of Living 職業選択における理想	食品廃棄物に関する英文を読み、食品廃棄の現状を 理解し、解決策を自ら考え理解する。 【文法】形式主語・分詞構文について身につける。 生きる技術についての文章を読み、将来の職業選択 について理解する。 【文法】独立分詞構文・前置詞+関係代名詞を身に つける。

1 学 期	7	STARTINGLINE はじめての大学入学共通 テスト ・第1問形式対策 ・第2問形式対策 ・第3問形式対策 1 学期期末試験	大学入学共通テスト対策 ・伝言メモやウェブサイトを読み、概要を理解する。 ・イラストやコメント付きの記事を読み、事実と意見を整理し、理解する。 ・ブログや雑誌の記事を読み、概要を理解する。
	【課題・提出物】 提出物：授業で使用したノート及びプリント 課題：ターゲット 1400 を用いて単語テストを随時実施する。2年次で 1400 までは 2 周しているので、範囲はランダムに設定する。 ※特指や長期休業中の課題として、各テキストを用いる。		
	【1 学期の評価方法】 素 点：70% [中間・期末試験] 平常点：30% [課題提出・単語テスト・授業態度等]		

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	○Lesson 5 Understanding Communication without Words 言葉以外のコミュニケーション ○Lesson 6 How to Make Japan Cool 日本を「クール」にする方法	非言語コミュニケーションについての英文を読み、様々なコミュニケーションとその文化的背景について理解する。 【文法】 比較表現・動名詞・so~that 構文を身につける。 今治タオル復活に関する文章を読み、世界に誇る日本の物づくりに関して、自分の意見を言える表現を身につける。 【文法】 付帯状況・強調構文を身につける。
	10	STARTINGLINE はじめての大学入学共通テスト ・第4問形式対策 ・第5問形式対策 ・第6問形式対策 2 学期中間試験	大学入学共通テスト対策 ・記事やそれに関する図表に注目し、必要な情報を整理し、学習する。 ・伝記の概要を把握し、話の展開を時系列順に整理し、学習する。 ・記事全体の内容を把握する読み方を身につける。

2 学 期	10	○Lesson 7 The Growth of Dictionaries in Japan 日本における英和辞典の発展の歴史 ○Lesson 8 Questions without Correct Answers 正解のない問	日本における英和辞典についての英文を読み、自分の英語学習について説明し、理解する。 【文法】倒置・仮定法を身につける。 Lady, or the Tiger? という物語を読み、「正解のない問」に出会った際に答えを出すために必要なものを考え、学習する。 【文法】分詞の後置修飾・使役動詞を身につける。
	11	2023 共通テスト対策 実力養成重要問題演習	大学入学共通テスト対策 ・適切な時間配分のもとで、文全体の概要を把握し、正答を導くことを身につける。
	12	2学期期末試験 駿台共通テスト対策過去問題集 ・最終演習	・適切な時間配分のもとで、各大問形式で完答を身につける。
	【課題・提出物】 提出物：授業中に用いるテキスト及びその他授業中に課したもの。 課題：ターゲット 1400 を用いて単語テストを随時実施する。2年次で 1400 までは 2 周しているので、範囲はランダムに設定する。 ※特指や長期休業中の課題として、各テキストを用いる。		
【2学期の評価方法】 素点：80%〔中間・期末試験〕 平常点：20%〔課題提出・単語テスト・授業態度等〕			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	駿台共通テスト対策過去問題集 ・最終演習 大学入学共通テスト ○Lesson 9 World Heritage: Not Always a Good Idea? 世界文化遺産登録による弊害 ○Lesson 10 Space Framing 宇宙空間でのレタス栽培	大学入学共通テスト対策 ・適切な時間配分のもとで、各大問形式で完答を身につける。 麗江古城についての文章を読み、世界遺産に登録されることの是非について、自分の意見を述べることを学習する。 【文法】助動詞 have 過去分詞・関係詞の継続用法を身につける。 宇宙農業についての英文を読み、宇宙開発や宇宙での野菜栽培の実施の意義について理解する。

2	国公立大学・私立大学過去問対策	<p>【文法】不定詞・関係代名詞の省略を身につける。</p> <p>・国公立大学の2次試験対策として、様々なジャンルの長文を読み、記述力を身につける。</p>
<p>【課題】</p> <p>課題：ターゲット 1400 を用いて単語テストを随時実施する。2年次で 1400 までは 2 周しているので、範囲はランダムに設定する。</p> <p>※特指や課題として、各テキストを用いる。</p>		
<p>【3 学期の評価方法】</p> <p>学習状況（課題提出・授業態度等）を総合的に判断する。</p>		
<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>評点 各学期の評点（定期試験の素点と平常点）に基づき算出する。</p>		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

項目	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	自ら学習に参加し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・定期試験
思考・判断	各 Lesson や問題のトピックについて自ら考え、何故その答えになるのかはっきりとした意見を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度
技能・表現	正しい語や文を書くことができ、なおかつ意見を発することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・小テスト ・定期試験
知識・理解	授業内容を理解し、本文を正確に理解できる。 英単語の意味や綴りを正確に覚えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・小テスト ・定期試験

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

入試を乗り切るためには、単語学習が必須である。家庭では、単語学習や英語表現と並行して基本事項の確認に徹しましょう。授業においては、制限時間を設けその場で解き、正答の根拠を明確にすることを目指していく。正答には必ず、正当な理由付けがあるので、何故その選択肢が正解なのか、また、何故他の選択肢が誤りであるのかの理由を説明できるようにしましょう。問題を解いて終わるのではなく、単語の確認、構文のチェック等、復習にも意欲的に取り組んでほしい。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
英語表現Ⅱ	2	3	Ⅱコース

教科書名 Vision Quest English Expression Ⅱ (啓林館)
 副教材名 Scramble 英文法・語法 4th edition (旺文社)
Scramble トレーニング問題集 三訂版 (旺文社)

1. 科目目標

<ul style="list-style-type: none"> ・英語(英文法)の知識を確認しながら、論理の展開や表現の方法を工夫し伝える能力を伸ばす。 ・大学入試に向けて必要な英語の基礎知識のさらなる定着を図る。 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。 <p><カリキュラム構成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目と後続シラバスの英語表現Ⅱ演習(1単位)で英語表現Ⅱを構成する(計3単位)
--

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<Vision Quest> Part 2 文章を組み立てる ○Lesson 1 文と文をつなぐ	・代用表現、省略を用いて論理的に文と文をつなぐ。
	5	○Lesson 2 パラグラフ① <Scramble トレーニング問題集> 第1章 時 制 第2章 受動態 第3章 助動詞 第4章 不定詞 —1学期中間試験—	・列挙や順序を表す表現を学び、英語の基本的な段落構成を理解する。 ・基本的な文法事項を確認し、実践力を身につける。
	6	<Vision Quest> Part 2 文章を組み立てる ○Lesson 3 パラグラフ②	・パラグラフ構成に基づき、例示、追加の表現を用い、まとまった英文が書けるようになる。
	7	○Lesson 4 パラグラフ③ <Scramble トレーニング問題集> 第5章 動名詞 第6章 分 詞 第7章 仮定法 第8章 比 較 —1学期期末試験—	・2つの事柄の比較及び類似を表す表現を理解し、英文をつなぐ。 ・重要構文を確認し、表現力の基礎を身につける。
<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の課題 ワークブックを自分で進めておく。 <p>*各テキストは長期休業中の課題・特指等で用いることもある。</p>			
<p>【1学期の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(中間試験・期末試験)：70% ・平常点(課題提出・小テスト・授業態度)：30% 			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<Vision Quest> Part 2 文章を組み立てる ○Lesson 5 パラグラフ④	・原因・理由・結果を表す英語のパラグラフが書けるようになる。

2 学 期	10	<Scramble トレーニング問題集> 第11章 代名詞 第12章 関係詞 第13章 接続詞 第15章①～③ 動詞の語法 —2学期中間試験— 第20章 意外な意味を持つ単語 第21章 重要同意語 第22章 重要多義語 第23章 まぎらわしい語 第24章①～④ 動詞中心のイディオム —2学期期末試験— 第25章 形容詞・副詞中心のイディオム 第26章 前置詞の働きをするイディオム	・総合的な英語力・表現力の基礎を固める。 ・語彙力を高めながら、実践的な表現力へと結びつける。
	【課題・提出物】 ・夏季休業課題 ・授業時の課題 ワークブックを自分で進めておく。		
	【2学期の評価方法】 ・定期試験(中間試験・期末試験)：80% ・平常点(課題提出・小テスト・授業態度)：20%		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	<Vision Quest> Part 2 文章を組み立てる ○Lesson 6 要点・要約	・主要文とキーワードをもとにパラグラフ構成を考え、英文を簡潔にまとめる。
	2	国公立2次試験対策	・各大学の二次試験対策を強化する。
【年間の学習状況の評価方法】 ・各学期の評点の平均を基に学年評定(5段階)を算出する。			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業中の活動・課題提出
思考・判断	事実や意見などを多様な観点から考察し論理の展開や表現の方法を工夫することができる。	授業中の活動・発表・課題提出・小テスト・定期考査
技能・表現	学んだ文法や語法を使用したり、状況に合った適切な表現を用いたりして自分の意思を効果的に伝えることができる。	授業中の活動・発表・課題提出・小テスト・定期考査
知識・理解	英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	授業中の活動・課題提出・小テスト・定期考査

4. 学習サポート(事前・事後学習等について)

この授業では、2年生までの文法・語法を確認しながら、共通テスト・国公立2次試験に向けての対策をしていく。スクランブルでの学習で既習事項をより確実にし、大学入試において必要な力を身につけてほしい。知識確認→演習→授業→復習の反復練習を繰り返しましょう。同じ問題に何度も取り組むことで、解答に到達するためのプロセスを自分の中に浸透させましょう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
英語表現Ⅱ演習	1	3	Ⅱコース

教科書名 Listening Coach Training Stage (いわずな書店)
2022 共通テスト対策実力完成直前演習 英語 リスニング(ラーズ)
駿台共通テスト対策過去問題集(駿台文庫)

1. 科目目標

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事物に関する紹介・報告、対話・討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり概要や要点をとらえたりする力を身につける。 <p><カリキュラム構成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目は英語表現Ⅱ（3単位）内の1単位として行う。 <p><授業のねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通テスト対策として次のことに重点を置く。 <ol style="list-style-type: none"> ① 限られた時間で設問の英文を読んで何が問われるかを予測する。 ② 共通テストの30分間のリスニングを集中して聴く力を身につける。 ③ 出題形式に慣れ効率的な学習をする。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学期	4	Listening Coach Training Stage 第3問形式 Unit 10 Unit 11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対話後の行動を予測する。 ・ それぞれの話者の意見を整理する。
	5	第4問形式 Unit 12 Unit 13 Unit 14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耳からと目からの情報を同時に処理する。 ・ 聞き取った数字・情報を正しく整理する。 ・ 条件を押さえた聞き取りをする。
	6	Unit 15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 条件との一致・不一致を判断する。
	7	第5問形式 Unit 16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の要点を把握する。
<p>【課題・提出物】 音声スクリプトの音読</p>			
<p>【1学期の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この科目自体の定期試験は行いません。 ・ 平素の授業参加態度や確認テストの結果を英語表現Ⅱの平常点に組み入れます。 			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学期	9	Listening Coach Training Stage 第6問形式 Unit 17 Unit 18	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話の争点を整理・把握する。
	10	<実力完成直前演習> 第1回 第2回 第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通テスト形式の問題演習をし、実践力を積み上げる。
	11	第4回	

2 学 期	12	第5回 第6回 第7回	
	【課題・提出物】 ・音声スクリプトの音読		
	【2学期の評価方法】 ・この科目自体の定期試験は行いません。 ・平素の授業参加態度や確認テストの結果を英語表現Ⅱの平常点に組み入れます。		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	駿台共通テスト対策過去問題集 過去問題演習 模擬問題演習	・共通テストに向けて仕上げを行う。 ・各大学の出題パターンに合わせた学習を行う。
	2	<国公立大学2次試験対策>	
【課題・提出物】 ・授業後にCDを聞いてスクリプトを読み、聞き取れない部分を確認する。			
【年間の学習状況の評価方法】 英語表現Ⅱとして各学期の評価を基に学年評定（5段階）を算出します。			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	聞くことに関心を持ち、積極的に視聴覚教材を活用して理解しようと努めている。	授業中の活動・課題提出
思考・判断	与えられた条件やヒントを基に、対話やモノローグの展開を理解することができる。	授業中の活動・課題提出・小テスト
技能・表現	音声や表現に注意しながら対話やモノローグの内容を理解することができる。	授業中の活動・課題提出・小テスト
知識・理解	英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	授業中の活動・課題提出・小テスト

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

<p>リスニングは、まず何よりも集中力を持って英語を聞くことが重要である。なんとなくリスニングでもやってみるかという感じでは時間の無駄になりかねません。まずは短い時間に集中して、聞こえてくる英語をそのまま理解できるように、そして最終的には30分程度の英語を理解できるようにしていきましょう。更に英語を聞くことも重要だが、音読できることも重要である。普段のどの英語の授業でも、英語を自分で音読することを意識してほしい。音読をすることによって、英語の語順に慣れていき、さらに自分の声を聴くので、音読そのものがリスニングの練習になる。英検などの各種検定試験にも積極的に取り組んで、リスニングを得意にしていましょう。</p>
--

<p>【1学期の評価方法】</p> <p>① 学期末試験 50% 1学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。 知識・理解の確認とともに、タイピングの知識などを見る問題も出題する。</p> <p>② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。</p> <p>③ 平常点 20%とする。課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。</p>			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ➤ インターネット ● WWW について ● URL の概念 ● Web ページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Web ページが閲覧できる仕組みを知り、Web サイトを表す URL の構造や意味を理解する。 ・ Web ページを便利に利用するため、検索サイトの構造や使用法について理解する。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報セキュリティ 1 ● 不正アクセス ● ファイアウォール ● コンピュータウィルス ● スパイウェア 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットを利用した犯罪や脅威について理解する。 ・ インターネットや情報を安全に利用できるような仕組みについて理解し、安全な利用法について理解する。 ・ 不正なアクセスやなりすましなどから情報を守るセキュリティ技術について理解し、安全に情報を管理し利用しようとする意識を持つ。
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報セキュリティ 2 ● 情報の暗号化の仕組み ● 共通鍵暗号方式 ● 公開鍵暗号方式 ● 電子署名、ハイブリッド暗号方式 	
	11	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 表計算ソフト ● 表計算ソフトの基礎 ● 計算式 ● 基本の関数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く一般に利用されている表計算ソフトの使い方を理解し、計算式や関数を使用して計算の自動化ができるようになる。
	12	2学期期末試験	
<p>【課題・提出物】</p> <p>授業で配布する資料プリント、授業ノート 実技演習課題</p>			

	<p>【2学期の評価方法】</p> <p>① 学期末試験 50% 2学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。 知識・理解の確認とともに、タイピングの知識などを見る問題も出題する。</p> <p>② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。</p> <p>③ 平常点 20%とする。課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。</p>		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 表計算ソフト ● いろいろな関数 ● グラフ表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトで使用できる便利な関数について知識を深める。 ・グラフ作成の技術を身に付ける。
	<p>【課題・提出物】</p> <p>実技演習課題</p>		
	<p>【3学期の評価方法】</p> <p>① 1学期と2学期の学期末試験をあわせて評価する。</p>		
<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>1学期末と2学期末の成績を統合して評価する。</p>			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	情報に関わる内容に興味を持ち、進んでタイピングやプログラミング等の実習に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピングテスト ・プログラミング ・授業時の取り組み
思考・判断	モラルやセキュリティに興味を持ち、情報を正しく判断できる。 処理手順を理解し適切なプログラムを構築できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実技演習課題 ・プログラムエラー処理
技能・表現	プログラミング、エラー処理等の一連の作業ができ、プログラムを動作させることができる。またブラインドタッチなどの技能を修得し、すばやい入力ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムエラー処理 ・実技演習課題
知識・理解	情報に関する知識や用語の意味を知り、適切に利用できる。また OS やアプリケーションソフトの使い方を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノート ・実技演習課題

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

- ・コンピュータリテラシーとしてタイピング技術を身につけていく。ブラインドタッチに挑戦しましょう。
- ・実技については、毎時間課題を課す、時間ごとの内容を確認するののでしっかり覚えましょう。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
総合探究	1	3年生	

教科書名 なし ※プリント学習
副教材名 なし _____

1. 科目目標

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① Use active learning to foster independent thinking in a group setting. ② Cooperate with class members to solve problems through discussion. ③ Present individual and group ideas in front of the class. |
|---|

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	Task 1 What' s cooking?	Instructing others Presenting in front of other people
	5	Task 2 Class Survey	Creating and conducting a survey Reporting and presenting findings
	6		
	7	GTEC Practice and Strategies	Practicing for the GTEC test
【課題・提出物】 N/A			
【1学期の評価方法】 Observation by homeroom teacher			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	Task 3 My Prized Possession	Presenting individually about a possession, describing it and explaining why it is important to you
	10	Task 4 Nandemokantedan	Presenting an item to other groups Understand descriptions in order to choose wisely as a group
	11		
	12	Task 5 Work, Work, Work	Choosing the right person for an occupation through group discussion Stating reasons for opinions
		GTEC Practice and Strategies	Practicing for the GTEC test

	【課題・提出物】 N/A		
	【2学期の評価方法】 Observation by homeroom teacher		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	Task 6 Revitalizing Fukushima	Designing a project to revitalize Fukushima Giving reasons and explaining ideas in a presentation
	【課題・提出物】 N/A		
	【3学期の評価方法】 Observation by homeroom teacher		
【年間の学習状況の評価方法】 Observation by homeroom teacher			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	Participation in group discussions	Observation by homeroom teacher
思考・判断	Sharing thoughts in presentations	Observation by homeroom teacher
技能・表現	Smoothness in presentation	Observation by homeroom teacher
知識・理解	Content of discussions and presentations	Observation by homeroom teacher

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

Try to speak only in English.
Say at least a few things in English every week.
Use a dictionary every lesson.
Try your best!

科目	単位数	対象学年	対象クラス
古典	3	3	Ⅱコース文系

教科書名 古典B(大修館)

副教材名 古文攻略マストアイテム(桐原書店) 解法古文単語 350(数研出版)

精選漢文(尚文) これからの古典文法(尚文出版)

プロGRESS古典総演習 発展編(いいずな書店)

ベーシックマスター国語 古文・漢文(Z会)

古典 共通テスト+センター試験国語過去問題(尚文出版)

1. 科目目標

1・2年生の段階で身に付けた読解のための基礎力を基に、演習を繰り返すことで大学入学共通テストおよび2次試験・私大入試に対応した実践力を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ～ 7	1. 【古文】(教科書) 2. 【漢文】(教科書) 3. 「プロGRESS古典総演習」 4. 「ベーシックマスター国語古文漢文」 5. 模試事前指導および解説 ●《実践力の養成(1)》※特指 ◆模試事前指導および解説 ◆基本事項の再確認 【定期試験】 ①古語単語・漢文語彙 ②文語文法に関する知識 ②漢文句形や文構造に関する知識 ②読解問題	【古文】 〔目標〕基本的文法事項の確認や読解の基本を再確認する。 〔内容〕 ①主な助動詞・助詞の用法を軸に基本的文法事項を整理する。 ②文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。 【漢文】 〔目標〕基本的句法の確認や読解の基本を再確認する。 〔内容〕 ①主な句形や漢文の読み方を再確認する。 ②文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。 【特指】 〔目標〕問題演習を通じて実践力を身につける。 〔内容〕模試や副教材を利用し、実践力を身につける。
		【課題・提出物】 適宜提出物を課す。	
	【第1学期の評価方法】	定期テストの平均点×70%+平常点(授業態度・提出物)30%	

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 ～ 10	1. 【古文】【漢文】《演習》 「共通テスト+センター試験国語過去問題」を利用 ●《実践力の養成(2)》※特指 ◆模試事前指導および解説 ◆基本事項の再確認 【定期試験】 ①古語単語・漢文語彙 ②文語文法に関する知識 ②漢文句形や文構造に関する知識 ②読解問題	【古文】 〔目標〕 様々な古文に触れ、基本的文法事項の復習と並行して大学入学共通テスト・2次試験に対応できる読解力を身につける。 〔内容〕 ①主な助動詞・助詞の用法を軸に基本的文法事項を整理する。 ②文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。 【漢文】 〔目標〕 様々な漢文に触れ、基本的文法事項の復習と並行して大学入学共通テスト・2次試験に対応できる読解力を身につける。 〔内容〕 ①主な句形や漢文の読み方を再確認する。 ②文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。
	10 ～ 12		【特指】 〔目標〕 問題演習を通じて実践力を身につける。 〔内容〕 模試や副教材を利用し、実践力を身につける。
		【課題・提出物】	適宜課題を課す。
		【第2学期の評価方法】	定期テストの平均点×80%+平常点20%
3 学 期	1	【大学入学共通テストまで】 《演習》「共通テスト+センター試験国語過去問題」を利用	【古文】 〔目標〕 問題演習を通じて実践力の養成を図る。 〔内容〕 二次試験や私大入試に向けた演習と解説を授業とする。 【漢文】 〔目標〕 問題演習を通じて実践力の養成を図る。 〔内容〕 二次試験や私大入試に向けた演習と解説を授業とする。
	2	【大学入学共通テスト後】 《演習》過去問などを適宜使用	
		【課題・提出物】	適宜提出物を課す
		【第3学期の評価方法】	定期テストの平均点×80%+平常点(授業態度・提出物)20%
【年間の学習状況の評価方法】 提出物の提出状況、授業態度などによる自学自習習慣			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	授業態度・各種試験
思考・判断	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度・各種試験
技能・表現	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、身に付けた知識を的確に使用し、現代語で表現できる。	各種テスト・提出物
知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている	各種テスト・提出物

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

古典学習ではまずは知識の習得が大切である。古語単語・古典文法(助詞、助動詞)・漢文句形・漢文の語彙・漢文の文型などをしっかりと身につけてほしい。その上で、演習問題などを通して文脈を把握し、設問に応じて解答する技能を身につけましょう。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
世界史B	3	3 学年	II コース文系

教科書名 詳説 世界史B

副教材名 新詳 世界史図説

世界史B用語集

大学入学共通テスト過去問題集

1. 科目目標

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解する。
- ② 世界に歴史における文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察する。
- ③ 歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	帝国主義の成立 ・ イギリスの国情 フランス・ドイツの国情 ロシアの国情・ アメリカの対外膨張 アフリカの分割	・ヨーロッパの進出に対するアジア諸国の外交・ 内政について理解するとともに、アジア同士の 国際関係についても理解する。
	5	太平洋分割・ ドイツの世界政策 確認テスト（単元テスト） 中国の分割・ 義和団事件 日露戦争と韓国併合	・第2次産業革命の中、「帝国主義の時代」が始ま り、欧米諸国による世界分割が進むことを学ぶ とともに、アジアにおける対応の様子を各地域 の特色を踏まえ理解する。
	6	辛亥革命・ アジアの民族運動 バルカン戦争・ 第1次世界大戦 ロシア革命・ ネップとソ連の成 ヴェルサイユ体制・ ワシントン会議 イタリアのファシズム ソ連の社会主義建設 アメリカ合衆国の繁栄 1学期末試験 特指 進研模試・ 全統模試予習・ 復習演習	・「世界政策」について検討し、それがイギリスへ どのような影響を与えたか検討する。 ・アメリカの中国政策の特徴を理解する。 ・辛亥革命の性格およびその成果について考察す る。 ・三国協商の結果、ドイツとの対立が激化したこ とを認識する。 ・総力戦として行われた、二つの世界大戦の原因 と影響を把握する。 ・ロシア二月革命と十月革命とを対比させて、そ れぞれの性格について理解する。
【課題・提出物】			
		・授業中に配布する演習プリント	・授業ノート・ファイルの点検
【第1学期の評価方法】			
① 定期試験の成績（70%） 知識・理解の確認とともに、歴史的な思考力を問う論述問題も出題する。			
② 学習態度等の平常点（30%） ・授業時などの学習過程で、評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を評価する。			

	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	7	1次大戦後の東アジア・北伐 インドの民族運動	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連盟と国際連合の成立過程、および平和構築に向けての具体的強制力の相違を理解する。 ・国際連盟と比較することで、国際連合の特徴を理解する。 ・国際連合は、米・英主導による連合国の平和機構として発足した点を認識する。 ・戦後の西欧と東欧諸国との体制や政治の違いを認識する。 ・アメリカとソ連の対立がエスカレートしていく過程を、具体的な出来事を踏まえて考察する。 ・冷戦はあくまでもヨーロッパのことであって、アジアでは朝鮮戦争のように熱い戦争になった事実を認識する。 ・なぜアジア・アフリカ諸国が第三勢力に結集したかを考察する。 ・冷戦終結後の世界について、政治・文化・経済等のグローバル化が、「アメリカ化」であることに反発がおこっていることを理解する。 	
	8	東南アジアの民族運動 トルコ革命・世界恐慌 ニューディール政策・満州事変 ナチスの台頭・スペイン内乱 第2次世界大戦・国際連合		
	9	ヨーロッパの冷戦 中華人民共和国の成立 朝鮮戦争・雪どけ 第三世界の連携 米ソ両大国の動揺 文化大革命 ベトナム戦争 冷戦の終結 ソ連の解体 各地の地域紛争		
	10	2学期中間試験		
	11	教科書終了後、大学入学共通テスト過去問題集を利用した演習授業		
	12	2学期期末試験範囲 大学入学共通テスト過去問題より出題特指 進研模試・全統模試予習・復習演習		
	【課題・提出物】 ・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート・ファイルの点検			
	【第2学期の評価方法】 ① 定期試験の成績（80%） 知識・理解の確認とともに、歴史的な思考力を問う論述問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点（20%） ・授業時などの学習過程で、評価の観点の4項目について評価する。 過去問題演習では、その取り組み方も評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を評価する。【第2学期の評価方法】			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	国公立2次試験・ 私立大学入試対策演習	私立大学・国公立2次試験の受験科目に世界史Bがある場合、その傾向にあわせた対策を行う。
	【課題・提出物】 特になし		
	【第3学期の評価方法】 ① 学習態度等の平常点 ・授業時などの学習過程で、評価の観点の4項目について評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】 1学期末と2学期中間(1学期と2学期中間までの成績)に進学用の仮評価を行う。 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する。			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	世界史に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを明らかにすることができる。	・授業時の様子 ・授業ノート・ファイル
思考・判断	先入観に囚われることなく、公正な立場から考察していくことができる。	・授業時の様子 ・授業ノート・ファイル ・定期テスト
技能・表現	授業で得た知識をもとに、歴史的事件の因果関係を解き明かすことができる。	・授業時の様子 ・定期テスト
知識・理解	授業内容を正確に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。	・成果テスト ・定期テスト

4. 学習サポート(事前・事後学習等について)

- ・学習方法の相談、学習方法の指導。随時、学習相談を実施しているので、理解の難しい所、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。
- ・授業内容に関する質問対応。
- ・確認プリントの配布または確認テストの実施。
- ・問題演習の授業では、予習が不可欠である。必ず予習・復習に取り組みましょう。

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
政治・経済	2	3 学年	Ⅱコース文系

教科書名 高等学校 現代政治・経済 新訂版 (清水書院)

副教材名 政治・経済資料 2021 (とうほう) 用語集政治・経済新訂第 7 版(清水書院)

進研 WINSTEP 政治・経済【改訂版】(ラーンズ)

1. 教科目標

- 情報化社会、技術革新の時代と言われ、今日の私たちの生活環境の変動にはめまぐるしいものがある。その一方で、第2次世界大戦後私たちの生活を規定していた「政治」「経済」などの様々な枠組みが有効に機能しなくなり、見直しが余儀なくされる場面も多々見られるようになってきている。こうした激動の時代に、私たちはどのように考え、何を選択し、いかに行動するかが問われている。政治・経済の授業を通して、これからの社会の中核として生きる高校生が主体的に考え、自分の意見をしっかり持ち、自分の言葉で表現できる力を養っていく。
- 大学入学共通テスト対策として教科書にとらわれることなく、幅広い知識を習得するために資料集や演習問題に多く触れ、各種試験に対応できる力を養っていく。
- 新聞・ニュースの活用。大学入学共通テスト・私大入試・対外模試では時事問題として現代社会の出来事が問われることが多い。授業の中で新聞・ニュースを取り入れていくことで、論理的思考を養い、各種試験・時事問題に対応できるような力を養う。
- プレゼン能力が重要な要素となってきたことを踏まえ、論理的にまとめ、発表できるように、コミュニケーション能力を養う。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4	第2編 現代の経済		
	5	第2章 金融と財政のしくみ	○金融や財政の仕組みを理解し、現代社会で実際に起こっている経済情勢やニュース等への興味・関心を高め、社会人として必要な知識の獲得を目指す。	
		1 金融のしくみとはたらき		
		2 財政のしくみとはたらき		
			第3章 日本経済のあゆみと現状	○戦後の日本経済のあゆみを理解し、歴史分野とリンクさせながら考察を深めていく。 ○日本経済がどのような変化を遂げ、現代社会に結びついているか理解する。
		1 戦後復興と高度成長		
		2 石油危機とバブル経済		
			3 バブル崩壊と失われた20年	
			1 学期中間試験	
	6	第4章 福祉の向上と日本経済の課題	○中小企業の日本における地位や役割を捉え、日本経済を支えている重要な役割を担っていることを理解する。	
1 労働基本権と労働運動				
2 今日の雇用問題と労働条件				
3 社会保障の成立と進展				
		4 中小企業の現状と問題		

	<p>5 環境をめぐる問題 6 消費者をめぐる問題 7 農業をめぐる問題</p> <p>7 1学期期末試験 8 夏期進学補習</p>	<p>○日本国憲法における労働基本権の保障と、労働三法の基本的な内容を体系的に理解する。 ○社会問題となっている社会保障制度について理解し、これからの保障制度について考察する。</p>	
<p>【課題・提出物】中間・期末試験後にノート提出（配布プリント、配信プリント等の確認を含む）</p>			
<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点（30%以内で算出） 授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。</p>			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	第5章 世界経済と日本	<p>○相互依存関係がより強まっている国際経済を貿易面から捉え、国際分業が世界経済にとってなぜ有益なのかをリカードの比較生産費説を通じて確認し、自由貿易と保護貿易の長所・短所を比較して理解する。</p> <p>○国際収支と外国為替の基本的な仕組みを概観し、世界経済における国際収支の在り方、外国為替相場の変動が国民経済に与える影響を理解する。</p> <p>○戦後の国際経済の基盤となったIMF・GATT体制が成立した歴史的背景を考察し、設置された機関の目的とその内容を理解する。</p>
	10	1 国際分業と貿易の利益 2 外国為替と国際収支のしくみ 3 グローバル化の進展と国際経済 4 アジア経済と南北問題 5 環境と人口 6 国際経済における日本の役割	
	11	2学期中間試験	
	12	2年時の政治分野の復習 大学入学共通テスト（旧センター試験） 過去問題演習 総合問題 2学期期末試験 冬期進学補習	
<p>【課題・提出物】中間・期末試験後にノート提出（配布プリント、配信プリント等の確認も含む）</p>			
<p>【第2学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績：教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テストの過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p>			

	②学習態度の平常点 (20%以内で算出) : 授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。課題の提出状況 (期限の遵守・課題の中身)、確認テスト等の成績を評価する。		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	大学入学共通テスト (旧センター試験)	○各自受験校の過去問題を自己分析し、傾向と対策を図る。
	2	過去問題演習	
	3	他私大受験対策	
	【課題・提出物】 ノート提出 (配布プリントの確認を含む)		
	【第3学期の評価方法】		
	①学習態度の平常点 (20%以内で算出) 授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。 課題の提出状況 (期限の遵守・課題の中身)、確認テスト等の成績を評価する。		
	【年間の学習状況の評価方法】		
	○1学期期末試験・2学期中間試験・2学期期末試験の総合成績。 ○平常点は以下の点を踏まえて20%以内とする (1学期のみ30%) ①政治・経済に対する興味・関心 ②授業に対する関心・意欲、取り組み ③課題等への取り組み ④年数回 (各定期試験後) のノート提出 (板書事項・配布プリント、配信プリント等の確認)		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	政治・経済に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを自分の言葉で表現することができる。	○授業時の様子・態度・取り組み ○授業ノート
思考・判断	先入観にとらわれることなく、公正な立場で物事を考察していくことができる。	○授業時の様子・態度・取り組み ○授業ノート ○定期試験
技能・表現	授業で得た知識をもとに、ペア学習やグループ学習で自分の考えを自分の言葉で、論理的に話すことができる。	○授業時の様子・態度・取り組み ○定期試験
知識・理解	授業内容を正確に理解し、教科書・資料集・用語集を読みこなす、使いこなすことができる。	○確認テスト (不定期に実施) ○定期試験

4. 学習サポート (事前・事後学習等について)

<p>○教科書の中身は抽象的に表現されており、そのまま理解しようとするとは難しく感じるものだが、授業で習っていることは、実は皆さんの身の回りに具体的なものとして存在していることばかりである。その事に早く気づき、抽象的なものを具体的事項として置き換えて理解しようとするれば、知識は深まっていく。</p> <p>○分からない所は、分からないままにするのではなく、積極的に質問に来てほしい。知らないことは恥ずかしいことではなく、知らないことをそのままにしておくことの方が恥ずかしい。理解できない所、つまづいている所があれば積極的に、早めに解決していきましょう。</p> <p>○2年次から使用している進研WIN STEPを有効に活用し、自主的に取り組みましょう。提出は求めないが、取り組んでいる人と取り組まない人の差は一目瞭然である。</p>
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
数学Ⅱ・数学B	5	3年生	Ⅱコース文系

教科書名 数学 A・B Advanced

副教材名 Hi-Prime New Action Legend ⅡB 共通テスト過去問題集ⅠAⅡB

1. 科目目標

計算力と思考力の融合

- ① 分析力の向上 (状況判断する力)
- ② 翻訳力の向上 (課題の内容を自分の言葉で言い換える力)
- ③ 目標設定力の向上 (課題解決に向かうスモールステップを自分で設ける力)
- ④ 遂行力の向上 (課題解決の過程を説明する力)

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ～ 6	数列	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しく並んだ数の性質を学ぶ <input type="checkbox"/>与えられた条件から、どの公式や考え方を用いればよいのかが分かる。(①分析力) <input type="checkbox"/>漸化式や群数列の問題を解くことができる。(④遂行力) <input type="checkbox"/>数学的帰納法の証明の手順を理解する。(①分析力②翻訳力③目標設定力) <input type="checkbox"/>確率漸化式では、推移図を用いて確率の変化を視覚的に表現でき、漸化式を立て、その漸化式を解くことができる。(②翻訳力③目標設定力④遂行力)
	7	整数	<ul style="list-style-type: none"> ・整数の集合でしか成り立たない性質を理解する <input type="checkbox"/>素因数分解を通して、約数や倍数、最大公約数や最小公倍数の理解を深める。(①分析力②翻訳力) <input type="checkbox"/>ユークリッドの互除法を学び、不定方程式が解ける。(②翻訳力④遂行力) <input type="checkbox"/>記数法に慣れる。(②翻訳力)
		【課題・提出物】	
		教科担当者の指示に従うこと。	

	<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>定期試験の成績を基本とする。平常点を30%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。</p>
--	---

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	8 ～ 9	整数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整数の集合でしか成り立たない性質を理解する □素因数分解を通して、約数や倍数、最大公約数や最小公倍数の理解を深める。 (①分析力②翻訳力) □ユークリッドの互除法を学び、不定方程式が解ける。(②翻訳力④遂行力) □記数法に慣れる。(②翻訳力)
	10 ～ 12	共通テスト対策演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路実現に向けて、共通テスト対策演習を行う □総合的に実力を伸ばす。 2次試験で数学を使う者に対しては、個別に対策する。
<p>【課題・提出物】</p> <p>教科担当者の指示に従うこと。</p>			
<p>【第2学期の評価方法】</p> <p>定期試験の成績を基本とする。平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。</p>			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 ～ 2	共通テスト対策演習	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて、共通テスト対策演習を行う □総合的に実力を伸ばす。 2次試験で数学を使う者に対しては、個別に対策する。
		【課題・提出物】	教科担当者の指示に従うこと。
		【第3学期の評価方法】	1、2学期までの成績を基本とする。平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を30%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	授業を通して、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを使い問題の考察や説明をしようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・提出物の状況
思考・判断	授業を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、それらを使い論理的に考察し、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・定期試験
技能・表現	問題を数学的に考察し、処理する仕方や推論する技術を身に付け、解決することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・定期試験
知識・理解	授業を通して、基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基本的な知識が身に付いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験

4. 学習サポート(教科担当者より)

①授業について

「数学の授業と体育の授業は似ている」→自分でやらないと(間違え事をしていないと)わからないし、出来るようにならない。数学で大切なのはアウトプットする事。

- 先ず手を動かす事…自分で出来る部分と出来ない部分を把握し、復習する部分を見付ける。おとなしく聞いて板書を写すことが授業を受けていることと勘違いをしない
- ノートを取るだけで満足しない…カラフルにノートをとっても意味はない。板書を写しているだけでも意味はない。
大切なのは自分で解けるようになる事
- 分からなければ誰かに尋ねる…「教え合う」事で理解度 90%。数学が苦手と自覚している人は特に「人に尋ねる」こと心掛ける。
→win-win の関係を築く。

②学習法について

数学は復習型の教科 「授業→復習→演習→授業→復習→…」を心掛ける。

復習の仕方

- ・ その日の授業に行った問題(解きにくいと感じたもの)を解き直す(計算用紙とか要らないものでよい)その際、気付いた事や解き方のポイントなどをノートに書き込んだり付箋に書いて張り付けたり出来れば good!!→ノートにコメントを書いた分だけ自分オリジナルの参考書が作れる。
- ・ 理解が乏しければ、目印をつけ、数日後にもう一度解き直してみる。
- ・ 授業前にノートを開き、直前の内容を軽く思い出してみる。
- ・ 復習の際は、数式だけ羅列するのではなく、常に「誰かに見せるつもり、誰かに授業をするつもり(④遂行力の向上)」で書くこと。行間の日本語や途中計算をごまかさず丁寧に仕上げること。

演習の仕方…Hi-Hi-Prime や New Action Legend を中心に演習

- ・ 計算力をつけたい→Hi-PrimeA 問題、New Action Legend ★マーク 1~2
- ・ 考える力をつけたい→Hi-PrimeB 問題、New Action Legend ★マーク 3~4
- ・ Classi やロイロノートを大いに利用すること。

その他

- ・ 進路実現が最大の目標であり、そのためには大学受験を突破しなければならない。文系であれば、最終的に目指すべきところは共通テストであり、そこで点数を得るためには、参考書や問題集を活用して様々な解法やテクニックを自主的に身に付けること。家庭学習では「**典型問題は素早く確実に解けるような演習**」(①分析力②翻訳力の向上)をメインに行うこと。
- ・ アクティブラーニングのときには「課題目標」「態度目標」を達成するのを心掛ける。積極的に他者に働きかけ、「静かに座って黙々と解く」ことをしてはならない。

困難な課題に取り組もうとする

態度目標

創造力と創造力の
伸長

積極的に聴く

聴くときは、集中して聴く
教師を信頼し、聴く
(分かったつもりにならない)
クラスメートのやり方・方法を聴く
※質問にレベルはない

計算力と思考力の
融合

妥協しない

納得するまで諦めない
答えを写して満足しない、自分が納得
するまで繰り返す
過去に遡ることをためらわず、勇気
をもって調べる

納得するまで考える
忍耐力

家庭で自己を見つめる

その日あったことを振り返る(復習する)
その日の授業を、頭の中で思い起こす

アウトプットを意識する

課題に取り組み、一人で出来るかを確認
する
友達に説明できるか試してみる

知識・技能を身に付ける

計算力の定着(複雑な計算でもしっかりこなせる)

表現力・思考力を身に付ける

論理的に物事を考える(初見の問題でも方針が立てられる)

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
生物基礎	2	3 学年	Ⅱ コース文系

教科書名 生物基礎 (数研出版)

副教材名 スクエア最新図説生物 (第一学習社) セミナー生物基礎 (第一学習社)

大学入学共通テスト攻略問題集 ビーライン 生物基礎 (第一学習社)

進研[センター試験]直前演習 生物基礎 (ラーンズ)

大学入試センター試験実践問題集 生物基礎 (駿台文庫)

1. 科目目標

1. 「生物」の面白さを知る

「生物」という科目では、生命現象のしくみや生命同士のつながり、生命の歴史について学ぶ。これらは、生命のひとつである「自分自身」を知ること・理解することであり、考えることだ。生命の神秘さ、面白さを知る。

2. 学力をつける

大学入学共通テストに対応できる学力を構築する。

3. 客観的な視点を育む

「生物」の学びを通して、「自分自身」や「自分自身をとりまく世界」を客観的に理解する視点を育む。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期		「大学入学共通テスト攻略問題集 ビーライン 生物基礎 (第一学習社)」 による復習と演習	「大学入学共通テスト攻略問題集 ビーライン 生 物基礎 (第一学習社)による演習を通して、生物基 礎の基礎知識を整理し、それらの定着をはかる。
	4	第4章 バイオームと多様性の分布	
	5	第5章 生態系とその保全	
		1 学期中間試験 [8時間]	
	6	「進研[センター試験]直前演習 生物基礎 (ラーンズ)」による演習 第1回～第5回	「進研[センター試験]直前演習 生物基礎 (ラーン ズ)」による演習を通して、センター試験に対する 応用力を養う。
		1 学期期末試験 [8時間]	
		【課題・提出物】 ・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する	
		【第1学期の評価方法】 ・ 定期試験の成績 (70%) ・ 学習態度及び提出物 (30%)	

	月	学習内容	学習のねらい
2 学期	9	「進研[センター試験]直前演習 生物基礎 (ラーンズ)」による演習 第6回～第10回	「進研[センター試験]直前演習 生物基礎 (ラーンズ)」による演習を通して、センター試験に対する応用力を養う。
	10	「大学入試センター試験実践問題集 生物基礎 (駿台文庫)」による演習 第1回～第5回 2学期中間試験[11時間]	「大学入試センター試験実践問題集 生物基礎 (駿台文庫)」による演習を通して、センター試験に対する実践力を養う。
	11	「大学入試センター試験実践問題集 生物基礎 (駿台文庫)」による演習 第1回～第5回 2学期期末試験 [13時間]	
	【課題・提出物】 ・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する。		
【第2学期の評価方法】 ・ 定期試験の成績 (80%) ・ 学習態度及び提出物 (20%)			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学期	1	センター試験予想問題による演習	センター試験のための直前対策をする。
【年間の学習状況の評価方法】 ・ 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	・生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト
思考・判断	・生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト
技能・表現	・生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、それを表現することができる。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト
知識・理解	・生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 ・自然界の様々な事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけている。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト

4. 学習サポート

- ・ 随時、学習相談を実施する。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
化学基礎	2	3	文系クラス

教科書名 新訂版 化学基礎(実教出版)

副教材名 ビーライン化学基礎2022 2023共通テスト対策直前演習 化学基礎

1. 科目目標

これまで勉強した内容を共通テストに向け確実なものにしていく。

2. 学習計画及び評価方法

月	学習内容	学習のねらい
4	3章 物質の変化 2 酸化剤・還元剤	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な酸化剤、還元剤の反応式の書き方を学習する。 酸化還元反応式の書き方を学習する。 酸化剤と還元剤の量的関係について学習する。
5	3節 酸化還元反応の起こりやすさ 金属のイオン化傾向 金属の反応性 電池のしくみ	<p>金属のイオン化列を利用し、空気、水、酸との性質に関する問題に対応できる力を育成する。</p> <p>電池の原理を理解する。ボルタ電池、ダニエル電池の仕組みも理解する。</p>
	総復習	
	1章 物質の構成	
	1節 物質の探求	<ul style="list-style-type: none"> 純物質と混合物を分類、物質の精製操作の仕組みと注意点について理解する。 化合物と単体、元素と単体の分類、同素体の意味を理解する。 粒子の熱運動、絶対温度について理解する。
	1 物質の種類と性質	
	2 化合物と元素	
	3 物質の三態と熱運動	
	2節 物質の構成粒子	<ul style="list-style-type: none"> 原子の構造(原子核, 陽子, 中性子, 電子)とその表し方(原子番号, 質量数), 同位体について理解する。 電子の存在の仕方(電子殻, 最大収容電子数, 価電子, 希ガス原子の電子配置)を理解する。 周期律と周期表を理解する。
	1 原子の構造	

6	<p>1 学期中間試験</p> <p>2 イオンの生成</p> <p>3 周期表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原子からイオンができる仕組みを理解する。 ・生成したイオンのイオン式，価数，名称を理解する。 ・イオン化エネルギー，電子親和力，イオン半径を理解する。 ・周期律を理解する。また，周期表を用い，原子半径・イオン半径の大小関係を判断できるよう力を育成する。
7	<p>2章 物質と化学結合</p> <p>1節 イオン結合</p> <p>1 イオン結合</p> <p>2 イオン結晶</p> <p>2節 共有結合と分子間力</p> <p>1 共有結合と分子間力</p> <p>2 共有結合からなる物質</p> <p>3節 金属結合</p> <p>1 金属結合</p> <p>2 金属</p> <p>4節 化学結合と物質</p> <p>1 物質の分類</p> <p>2 金属結合からなる物質とその利用</p> <p>3 イオン結合からなる物質とその利用</p> <p>4 共有結合からなる物質とその利用</p> <p>3章 物質の変化</p> <p>1節 物質と化学反応式</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イオン結合の仕組みとその結合で生成したイオン結晶の性質，表し方(組成式)を理解する。 ・共有結合の仕組みとその結合で生成した共有結晶，分子結晶の性質，表し方(分子式，電子式，構造式)を理解する。 ・分子模型を用い分子の構造を理解する。 ・共有結合の例外としての配位結合を理解し，その結合の仕方が判断できる力を身につける。 ・電気陰性度と分子の極性の関係を理解する。 ・金属結合の仕組みとその結合で生成した金属結晶の性質，構造(体心立方格子，面心立方格子，六方最密構造)を理解する。 ・化学結合と各結晶の分類を理解する。

	<p>1 原子量・分子量・式量</p> <p>2 物質質量</p> <p>3 溶液の濃度</p> <p>4 化学反応式</p> <p>1 学期期末試験</p> <p>2 節 酸と塩基</p> <p>1 酸と塩基</p> <p>2 水素イオン濃度と pH</p> <p>3 中和反応と塩</p> <p>4 中和滴定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質量数 1 2 の炭素を基準とする原子の相対質量(原子量)と同位体の原子量の求め方を理解する。 ・原子量をもとに分子量, 式量の求め方を理解する。 ・化学の世界の単位「mol(モル、物質質量)」について理解する。 ・mol から個数, 質量, 体積が求め方を確認する。 ・質量パーセント濃度, モル濃度の求め方を理解する。 ・化学反応式の書き方を理解する。 ・化学反応式を用い, 様々な値の求め方を理解する。 ・化学の基本法則と原子説, 分子説を理解する。 ・原子説で気体反応の法則が説明出来ない理由を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・定義を用い, 酸, 塩基を分類について理解する。 ・分類した酸, 塩基の強弱には電離度が関係していることを理解する。 ・電離式, 水のイオン積を用い, 水素イオン濃度の求め方を身につける。 ・水素イオン濃度から pH の求め方を身につける。 ・酸, 塩基を反応させ, 水と塩ができる様子を反応式で表わし方を理解する(中和反応)。 ・生成した塩の分類を理解する。 ・中和反応の関係をを用い, 酸, 塩基のモル濃度と体積の求め方を身につける。 ・中和滴定(中和反応の実験)で使用する器具や操作方法を身につける。 ・滴定曲線(実験から得られるグラフ)の種類について理解する。
<p>【課題・提出物】</p> <p>・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート</p>		
<p>【第 1 学期の評価方法】</p> <p>① 定期試験の成績(70%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の確認とともに、化学的思考について問う問題も出題する。 <p>② 学習態度等の平常点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の学習過程で評価の観点の 4 項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。 		

	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	3章 酸化還元反応 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素，水素，電子の授受から物質を分類することを身につける。 ・酸化数の定義を理解する。 ・酸化剤，還元剤の定義を理解する。 ・代表的な酸化剤，還元剤の反応式の書き方を理解する。 ・酸化還元反応式の書き方を理解する。 ・酸化剤と還元剤の量的関係について理解する。 	
	10	3 金属の酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> ・金属のイオン化傾向，水との反応，酸との反応について理解する。 ・様々な反応の様子を電子を用いた式で表す方法を理解する。 	
	11	2学期中間試験 対策問題集，共通テスト予想問題集を利用した実践演習。		
	12	2学期期末試験		
	【課題・提出物】 ・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート ・夏季休業中課題			
【第2学期の評価方法】 ① 定期試験の成績(70%) ・知識・理解の確認とともに、化学的思考について問う問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点 ・授業時の学習過程で評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。				
	月	学習内容	学習のねらい	
3 学 期	1	対策問題集，共通テスト予想問題集を利用した実践演習。		
	【課題・提出物】 ・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート			
	【第3学期の評価方法】 ① 定期試験の成績(70%) ・知識・理解の確認とともに、化学的思考について問う問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点 ・授業時の学習過程で評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。			
【年間の学習状況の評価方法】 各学期の成績を総合して評価する。				

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。 ・講義式、実験式いずれの授業においても集中力を保つ。 ・授業で得た結果を基に発展的な興味をもって自主的活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 ・授業内容について科学的な捉え方ができる。 ・授業の成果をいかして社会や生活との関連を考えられる。 ・発展的な内容についても思考を展開させられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・演習プリント ・定期テスト
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。 ・操作の意味をよく理解し、実技のレベルが的確である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・定期テスト
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 ・学んだ内容が関連付けて整理され定着している。 ・知識を用いて発展的な応用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・小テスト ・定期テスト

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

随時、学習相談を実施するので、箇所があれば早めに質問しにきてほしい。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
倫理	2	3 学年	Ⅱコース文系

教科書名 高等学校 新倫理 新訂版 (清水書院)

副教材名 テオリア最新倫理資料集 新版三訂 (第一学習社)

用語集倫理 新訂第4版 (清水書院) 進研 WINSTEP 倫理【改訂版】(ラーズ)

1. 科目目標

- 自我の目覚める高校時代は人間や社会について関心を持ち、人生観・世界観についての思索を深め、人間形成への大きな一歩を踏み出す時期である。その時期に「目に見えない大切なもの」を求め、「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題を探究し、倫理の授業を通し、生徒自身が世界観・人生観を形成していく。
- 思想は、歴史的背景と前時代の課題を受けて成立するものであり、歴史的・有機的な関連性がある。先哲の思想を学ぶことで、物質文明の繁栄が謳われる反面、人間性や人間の尊厳の喪失が指摘される今日の社会において、人間とは何か、自分はどうか深く探究していく。
- 教科書にとらわれることなく、幅広い知識を習得するために資料集や演習問題に多く触れ、大学入学共通テストに対応できる力を養っていく。
- 演習問題をこなし、実践力を養う。(定期試験の中にも大学入学共通テスト(旧センター試験)や私大の受験問題を活用する)

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容 第1節 日本の風土と伝統 1 日本の風土と人々の生活	○我々の生きている日本という風土が、人と自然の関わりにおいて持つ特殊性について理解する。 ○日本人として、伝統的文化を振り返りながら、そこに込められた人々の知恵を自覚する。
	5	2 古代の人々の考え方 第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入ー古代仏教の思想 2 仏教の土着化ー鎌倉仏教の思想	
		第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学	○中国で生まれた儒教が、5世紀ごろに外来思想として移入したこと、その後、江戸時代に儒学として日本化されたことを理解する。
		1 学期中間試験	

<p>6</p> <p>第4節 日本文化と国学</p> <p>1 古典美の再発見</p> <p>2 国学</p> <p>第5節 近世庶民の思想</p> <p>1 都市庶民の思想</p> <p>2 農民の思想</p> <p>第6節 西洋近代思想の受容</p> <p>1 西洋文明との接触</p> <p>2 啓蒙思想と民権論</p> <p>3 キリスト教の受容</p> <p>1 学期期末試験</p> <p>7</p> <p>4 国家主義の高まりと社会主義</p> <p>5 近代的自我の成立</p> <p>6 近代日本哲学の成立</p> <p>7 近代日本の思想傾向への反省</p> <p>夏期進学補習</p>		<p>○江戸時代までに形成された日本人の美意識について理解させる。(「雅」「あはれ」「いき」「通」など。)</p> <p>○儒学を批判する形で国学が成立した背景を理解する。</p> <p>○町人文化の隆盛が起こった時代背景を理解し、町人階層が次第に台頭してくる社会状況の変化について考えていく。</p> <p>○幕末の洋学者たちが登場した歴史的背景を把握し、近代社会成立への意義を考え、理解する。</p> <p>○西洋近代思想を支える精神としてのキリスト教を受け入れた先人の信仰と考え方を理解する。</p> <p>○近代化をすすめる明治期の日本の有り方について、国家主義や国粋主義そして社会主義の立場で模索した先人の考え方をとらえる。</p> <p>○文学作品を中心に、近代化を進めた明治大正期の日本人の自我のめざめの動きを把握する。</p> <p>○西欧に範をとった日本の近代化の中で、独自の思想の確立を求めて苦闘した思想家の歩みを理解する。</p>
<p>【課題・提出物】</p> <p>中間・期末試験後にノート提出(配布プリントの確認を含む)</p>		
<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績</p> <p>教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト(旧センター試験)の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点(一学期のみ30%)</p> <p>授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。</p> <p>課題の提出状況(期限の遵守・課題の中身)、確認テスト等の成績を評価する。</p>		

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	第2章 現代の日本と日本人としての 自覚 ・新たな価値観の模索 ・現代日本と私たちの課題 ・主体性の確立	○坂口安吾や丸山真男の著作や活動を通して、第二次世界大戦後の日本の新たな価値観の模索について理解する。 ○自己の独自性の自覚とともに、他者の存在を尊重することによって他者と共に「よく生きる」世界がうまれることを考える。
	10	基礎学力到達度試験過去問題演習 2年生時の内容の復習・確認 2学期中間試験	○基礎学力到達度試験問題の傾向と対策を図り、基礎学力到達度試験へ対応するとともに大学入学共通テストへつなげる。
	11	第6節 現代における理性の問題 (P132～) …復習 1 生命への畏敬 2 理性主義の見なおし 3 他者の尊重 4 社会参加と他者への奉仕	
	12	第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理 第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容と共生 第5章 情報社会とその課題 第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和	○家族形態の変化と少子高齢の進行のなか家族の抱える諸問題を考察し、家族のあり方について自分なりに考える。 ○情報リテラシーの必要性を実感するとともに、情報社会における自己実現のあり方について考える。 ○異文化への寛容、多様な価値観を認めることが、異文化理解につながり、自己(自国)の存在を再確認することになることを理解する。
		問題演習 大学入学共通テスト(旧センター試験)過去問題演習 2学期期末試験 冬期進学補習	○大学入学共通テスト(旧センター試験)の過去問題を分析し、傾向と対策を図る。

【課題・提出物】 中間・期末試験後にノート提出（配布プリントの確認を含む）		
【第2学期の評価方法】		
①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。		
②学習態度の平常点（20%以内） 授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。		
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 大学入学共通テスト（旧センター試験） 過去問題演習	○大学入学共通テスト二次試験対策として時事問題を各自でまとめる。
	2 大学入学共通テスト（旧センター試験） 過去問題 大学入学共通テスト二次対策 他私大受験対策	○各自受験校の過去問題を自己分析し、傾向と対策を図る。
【課題・提出物】 特になし。		
【第3学期の評価方法】		
①学習態度の平常点 授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】 総合評価は、学期末ごとに行う。総合成績には平常点が含まれる。 ○平常点は以下を踏まえて、20%以内とする。（1学期のみ30%） ①倫理に対する興味と関心 ②授業に対する意欲と関心、取組み ③課題等への取組み（宿題等） ④年数回（各定期試験後）のノート提出（板書事項・配布プリントの確認）		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	倫理に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを自分の言葉で明らかにすることができる。	○授業時の様子 ○授業ノート
思考・判断	先入観にとらわれず、公平・公正な立場から物事を考察していくことができる。	○授業時の様子 ○授業ノート ○定期試験
技能・表現	授業で得た知識をもとに、現実の事象を論理的に解き明かすことができる。	○授業時の様子 ○定期試験
知識・理解	授業内容を適切に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。	○確認テスト（不定期に実施） ○定期試験

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

暗記から理解へ。社会科は暗記科目だと考えている人も多いと思うが、倫理は過去に生きた人々の思想を知るだけではない。語句の暗記だけでなく、背景などにも関心を抱きましょう。そのために、授業にとどまらず、わかりにくいところがあれば、どんどん質問に来てほしい。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
古典	2	3	Ⅱコース理系

教科書名 古典B(大修館)

副教材名 古文攻略マストアイテム(桐原書店) 解法古文単語 350(数研出版)

精選漢文(尚文) これからの古典文法(尚文出版)

プログレス古典総演習 発展編(いいずな書店)

ベーシックマスター国語 古文・漢文(Z会)

古典 共通テスト+センター試験国語過去問題(尚文出版)

1. 科目目標

1・2年生の段階で身に付けた読解のための基礎力を基に、演習を繰り返すことで大学入学共通テストおよび2次試験・私大入試に対応した実践力を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ～ 7	1. 【古文】(教科書) 2. 【漢文】(教科書) 3. 「プログレス古典総演習」 4. 「ベーシックマスター国語古文漢文」 5. 模試事前指導および解説 ●《実践力の養成(1)》※特指 ◆模試事前指導および解説 ◆基本事項の再確認 【定期試験】 ①古語単語・漢文語彙 ②文語文法に関する知識 ②漢文句形や文構造に関する知識 ②読解問題	【古文】 〔目標〕基本的文法事項の確認や読解の基本を再確認する。 〔内容〕 ①主な助動詞・助詞の用法を軸に基本的文法事項を整理する。 ②文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。 【漢文】 〔目標〕基本的句法の確認や読解の基本を再確認する。 〔内容〕 ①主な句形や漢文の読み方を再確認する。 ②文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。 【特指】 〔目標〕問題演習を通じて実践力を身につける。 〔内容〕模試や副教材を利用し、実践力を身につける。
		【課題・提出物】 適宜提出物を課す。	
	【第1学期の評価方法】	定期テストの平均点×70%+平常点(授業態度・提出物)30%	

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 ～ 10	1. 【古文】【漢文】《演習》 「共通テスト+センター試験国語過去問題」を利用 ●《実践力の養成(2)》※特指 ◆模試事前指導および解説 ◆基本事項の再確認 【定期試験】 ①古語単語・漢文語彙 ②文語文法に関する知識 ②漢文句形や文構造に関する知識 ②読解問題	【古文】 〔目標〕 様々な古文に触れ、基本的文法事項の復習と並行して大学入学共通テスト・2次試験に対応できる読解力を身につける。 〔内容〕 ①主な助動詞・助詞の用法を軸に基本的文法事項を整理する。 ②文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。 【漢文】 〔目標〕 様々な漢文に触れ、基本的文法事項の復習と並行して大学入学共通テスト・2次試験に対応できる読解力を身につける。 〔内容〕 ①主な句形や漢文の読み方を再確認する。 ②文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。
	10 ～ 12		【特指】 〔目標〕 問題演習を通じて実践力を身につける。 〔内容〕 模試や副教材を利用し、実践力を身につける。
		【課題・提出物】	適宜課題を課す。
		【第2学期の評価方法】	定期テストの平均点×80%+平常点20%
3 学 期	1	【大学入学共通テストまで】 《演習》「共通テスト+センター試験国語過去問題」を利用	【古文】 〔目標〕 問題演習を通じて実践力の養成を図る。 〔内容〕 二次試験や私大入試に向けた演習と解説を授業とする。 【漢文】 〔目標〕 問題演習を通じて実践力の養成を図る。 〔内容〕 二次試験や私大入試に向けた演習と解説を授業とする。
	2	【大学入学共通テスト後】 《演習》過去問などを適宜使用	
		【課題・提出物】	適宜提出物を課す
		【第3学期の評価方法】	定期テストの平均点×80%+平常点(授業態度・提出物)20%
【年間の学習状況の評価方法】 提出物の提出状況、授業態度などによる自学自習習慣			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	授業態度・各種試験
思考・判断	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度・各種試験
技能・表現	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、身に付けた知識を的確に使用し、現代語で表現できる。	各種テスト・提出物
知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている	各種テスト・提出物

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

古典学習では、まずは知識の習得が大切である。古語単語・古典文法(助詞、助動詞)・漢文句形・漢文の語彙・漢文の文型などをしっかりと身につけ、その上で演習問題などを通して文脈を把握し、設問に応じて解答する技能を身につけてほしい。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
数学Ⅲ	5	3 学年	Ⅱ コース理系

教科書名 数学Ⅲ Advanced

副教材名 Prime New Action Legend II B 実力強化問題集

共通テスト過去問題集 I A II B

1. 科目目標

創造力と想像力の伸長

- ① 分析力の向上(状況判断する力)
- ② 翻訳力の向上(課題の内容を自分の言葉に言い換える力)
- ③ 目標設定力の向上(課題解決に向かってスモールステップを自分で設ける力)
- ④ 遂行力の向上(課題解決の過程を説明する力)

2. 学習計画及び評価方法

(CanDo リストになっています。単元毎に自己評価をしましょう)

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ~ 7	極限 微分	<ul style="list-style-type: none"> ・数列や関数の極限の式変形を身に付ける <input type="checkbox"/>漸化式を解くことができ、極限を求めることができる。(①分析力) <input type="checkbox"/>グラフを利用して、関数の極限を求めることができる。(②翻訳力) ・様々な関数の微分を通して、計算力を育みグラフをかくことで関数の挙動を調べる <input type="checkbox"/>導関数の定義や公式を使いこなすことができる。(①分析力) <input type="checkbox"/>グラフをかくことができる。(②翻訳力) <input type="checkbox"/>数Ⅱの微分の理論を活用し、問題を解くことができる。(③目標設定力)
		【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと	
		【第1学期の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を30%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。	
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 ~ 12	積分	<ul style="list-style-type: none"> ・積分計算を通して、複雑な図形の面積や体積を求める <input type="checkbox"/>公式をしっかりと覚え、正しく適用できる。(①分析力)

	入試問題演習	<input type="checkbox"/> 面積や体積を求めることができる。(①分析力③目標設定力) ・進路実現に向けて、各大学の入試問題や共通テストの問題演習をする <input type="checkbox"/> 総合的に実力を伸ばす。
	【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと	
	【第2学期の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。	

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 ~ 2	入試問題演習	・進路実現に向けて、各大学の入試問題や共通テストの問題演習をする <input type="checkbox"/> 総合的に実力を伸ばす
		【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと	
		【第3学期の評価方法】 1、2学期までの成績を基本とする。 平常点を30%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。	
	【年間の学習状況の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	学習を通じ、数学的事象に興味・関心を持ち、級友と、自分のわからないところや説明ができるところを話し合おうとする。	提出物の状況 授業中の様子
思考・判断	身に付けた知識やテクニックを利用して、抽象的な課題、複雑な課題に取り組み課題解決を図る。	各テスト
技能・表現	数式や図形の性質や特徴を理解し、課題解決を図る。	各テスト
知識・理解	用語の定義や意味、公式、数学における基本的な概念を理解し、それを活用できる。	各テスト

4. 学習サポート(教科担当者より)

①授業について

「数学の授業と体育の授業は似ている」→自分でやらないと(間違える事をしてないと)わからないし、出来るようにならない。数学で大切なのはアウトプットする事。

- 先ず手を動かす事…自分で出来る部分と出来ない部分を把握し、復習する部分を見付ける。おとなしく聞いて板書を写すことが授業を受けていることと勘違いをしない
- ノートを取るだけで満足しない…カラフルにノートをとっても意味はない。板書を写しているだけでも意味はない。
大切なのは自分で解けるようになる事
- 分からなければ誰かに尋ねる…「教え合う」事で理解度 90%。数学が苦手と自覚している人は特に「人に尋ねる」こと心掛ける。
→win-win の関係を築く。

②学習法について

数学は復習型の教科 「授業→復習→演習→授業→復習→…」を心掛ける。

復習の仕方

- ・ その日の授業に行った問題(解きにくいと感じたもの)を解き直す(計算用紙とか要らないものでよい)その際、気付いた事や解き方のポイントなどをノートに書き込んだり付箋に書いて張り付けたり出来れば good!!→ノートにコメントを書いた分だけ自分オリジナルの参考書が作れる。
- ・ 理解が乏しければ、目印をつけ、数日後にもう一度解き直してみる。
- ・ 授業前にノートを開き、直前の内容を軽く思い出してみる。
- ・ 復習の際は、数式だけ羅列するのではなく、常に「誰かに見せるつもり、誰かに授業をするつもり(④遂行力の向上)」で書くこと。行間の日本語や途中計算をごまかさず丁寧に仕上げること。

演習の仕方…Prime や New Action Legend を中心に演習

- ・ 計算力をつけたい→PrimeA 問題
- ・ 考える力をつけたい→PrimeB 問題
- ・ Classi やロイロノートを大いに利用すること。

その他

- ・ 進路実現が最大の目標であり、そのためには大学受験を突破しなければならない。理系であれば、最終的に目指すべきところは国公立 2 次試験であり、そこで合格点を得るためには、参考書や問題集を活用して様々な解法やテクニックを自主的に身に付けること。家庭学習では「思考力を伴うような問題演習」(②翻訳力③目標設定力の向上)をメインに行うこと。
- ・ アクティブラーニングのときには「課題目標」「態度目標」を達成するのを心掛ける。積極的に他者に働きかけ、「静かに座って黙々と解く」ことをしてはならない。

困難な課題に取り組もうとする

態度目標

創造力と創造力の
伸長

積極的に聴く
聴くときは、集中して聴く
教師を信頼し、聴く
(分かったつもりにしない)
クラスメートのやり方・方法を聴く
※質問にレベルはない

計算力と思考力の
融合

妥協しない
納得するまで諦めない
答えを写して満足しない、自分が納得
するまで繰り返す
過去に遡ることをためらわず、勇気
をもって調べる

納得するまで考える
忍耐力

家庭で自己を見つめる
その日あったことを振り返る(復習する)
その日の授業を、頭の中で思い起こす

アウトプットを意識する
課題に取り組み、一人で出来るかを確認
する
友達に説明できるか試してみる

知識・技能を身に付ける

計算力の定着(複雑な計算でもしっかりこなせる)

表現力・思考力を身に付ける

論理的に物事を考える(初見の問題でも方針が立てられる)

科目	単位数	対象学年	対象クラス
数学 B	2	3 学年	II コース理系

教科書名 数学III Advanced

副教材名 Prime New Action Legend II B 実力強化問題集

共通テスト過去問題集 I A II B

1. 科目目標

創造力と想像力の伸長

- ① 分析力の向上(状況判断する力)
- ② 翻訳力の向上(課題の内容を自分の言葉に言い換える力)
- ③ 目標設定力の向上(課題解決に向かってスモールステップを自分で設ける力)
- ④ 遂行力の向上(課題解決の過程を説明する力)

2. 学習計画及び評価方法

(CanDo リストになっています。単元毎に自己評価をしましょう)

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ~ 7	数列の極限 入試対策演習	<ul style="list-style-type: none"> ・数列や関数の極限の式変形を身に付ける <input type="checkbox"/>漸化式を解くことができ、極限を求められる。(① 分析力) ・進路実現に向けて、各大学の入試問題や共通テストの問題演習をする <input type="checkbox"/>総合的に実力を伸ばす。
	【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと		
	【第1学期の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を 30%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。		
2 学 期	9 ~ 12	入試対策演習	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて、各大学の入試問題や共通テストの問題演習をする <input type="checkbox"/>総合的に実力を伸ばす
	【課題・提出物】 教科 担当者の指示に従うこと		
	【第2学期の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を 20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。		

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 ~ 2	入試対策演習	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて、各大学の入試問題や共通テストの問題演習をする □総合的に実力を伸ばす。
	【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと		
	【第3学期の評価方法】 1、2学期までの成績を基本とする。 平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。		
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	学習を通じ、数学的事象に興味・関心を持ち、級友と、自分のわからないところや説明ができるところを話し合おうとする。	提出物の状況 授業中の様子
思考・判断	身に付けた知識やテクニックを利用して、抽象的な課題、複雑な課題に取り組み課題解決を図る。	各テスト
技能・表現	数式や図形の性質や特徴を理解し、課題解決を図る。	各テスト
知識・理解	用語の定義や意味、公式、数学における基本的な概念を理解し、それを活用できる。	各テスト

4. 学習サポート(教科担当者より)

①授業について

「数学の授業と体育の授業は似ている」→自分でやらないと(間違える事をしてないと)わからないし、出来るようにならない。数学で大切なのはアウトプットする事。

- 先ず手を動かす事…自分で出来る部分と出来ない部分を把握し、復習する部分を見付ける。おとなしく聞いて板書を写すことが授業を受けていることと勘違いをしない
- ノートを取るだけで満足しない…カラフルにノートをとっても意味はない。板書を写しているだけでも意味はない。
大切なのは自分で解けるようになる事
- 分からなければ誰かに尋ねる…「教え合う」事で理解度 90%。数学が苦手と自覚している人は特に「人に尋ねる」こと心掛ける。
→win-win の関係を築く。

②学習法について

数学は復習型の教科 「授業→復習→演習→授業→復習→…」を心掛ける。

復習の仕方

- ・ その日の授業に行った問題(解きにくいと感じたもの)を解き直す(計算用紙とか要らないものでよい)その際、気付いた事や解き方のポイントなどをノートに書き込んだり付箋に書いて張り付けたり出来れば good!!→ノートにコメントを書いた分だけ自分オリジナルの参考書が作れる。
- ・ 理解が乏しければ、目印をつけ、数日後にもう一度解き直してみる。
- ・ 授業前にノートを開き、直前の内容を軽く思い出してみる。
- ・ 復習の際は、数式だけ羅列するのではなく、常に「誰かに見せるつもり、誰かに授業をするつもり(④遂行力の向上)」で書くこと。行間の日本語や途中計算をごまかさず丁寧に仕上げること。

演習の仕方…Hi-Prime や New Action Legend を中心に演習

- ・ 計算力をつけたい→PrimeA 問題
- ・ 考える力をつけたい→PrimeB 問題
- ・ Classi やロイロノートを大いに利用すること。

その他

- ・ 進路実現が最大の目標であり、そのためには大学受験を突破しなければならない。理系であれば、最終的に目指すべきところは国公立 2 次試験であり、そこで合格点を得るためには、参考書や問題集を活用して様々な解法やテクニックを自主的に身に付けること。家庭学習では「思考力を伴うような問題演習」(②翻訳力③目標設定力の向上)をメインに行うこと。
- ・ アクティブラーニングのときには「課題目標」「態度目標」を達成するのを心掛ける。積極的に他者に働きかけ、「静かに座って黙々と解く」ことをしてはならない。

困難な課題に取り組もうとする

態度目標

創造力と創造力の
伸長

積極的に聴く

聴くときは、集中して聴く
教師を信頼し、聴く
(分かったつもりにしない)
クラスメートのやり方・方法を聴く
※質問にレベルはない

計算力と思考力の
融合

妥協しない

納得するまで諦めない
答えを写して満足しない、自分が納得
するまで繰り返す
過去に遡ることをためらわず、勇気
をもって調べる

納得するまで考える
忍耐力

家庭で自己を見つめる

その日あったことを振り返る(復習する)
その日の授業を、頭の中で思い起こす

アウトプットを意識する

課題に取り組み、一人で出来るかを確認
する
友達に説明できるか試してみる

知識・技能を身に付ける

計算力の定着(複雑な計算でもしっかりこなせる)

表現力・思考力を身に付ける

論理的に物事を考える(初見の問題でも方針が立てられる)

科目	単位数	対象学年	対象クラス
倫理	2	3 学年	Ⅱコース理系

教科書名 高等学校 新倫理 新訂版 (清水書院)

副教材名 用語集 倫理 新訂第4版 (清水書院)

進研 WINSTEP 倫理【改訂版】(ラーズ)

1. 科目目標

- 自我の目覚める高校時代は人間や社会について関心を持ち、人生観・世界観についての思索を深め、人間形成への大きな一歩を踏み出す時期である。その時期に「目に見えない大切なもの」を求め、「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題を探求し、生徒自身が世界観・人生観を形成していく。
- 思想は、歴史的背景と前時代の課題を受けて成立するものであり、歴史的・有機的な関連性がある。先哲の思想を学ぶことで、物質文明の繁栄が謳われる反面、人間性や人間の尊厳の喪失が指摘される今日の社会において、人間とは何か、自分はどうあるべきか深く探求していく。
- 教科書にとらわれることなく、幅広い知識を習得するために資料集や演習問題に多く触れ、大学入学共通テストに対応できる力を養っていく。
- 演習問題をこなし、実践力を養う。(定期試験の中にも共通テストや私大の過去問題等を活用する)

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2章 青年期の課題と自己形成 1 青年期の意義 2 自己の理解に向けて 3 豊かな自己実現のために	○最も盛んな時期である高校生の年代を通して青年期の特徴について理解する。 ○青年期の特徴を捉えるとともに、アイデンティティの確立が個性形成の第一歩であることへの理解を深める。 ○心理的な働きを通して、社会に適応することと人格形成の重要性を理解する。
	5	第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学 1 神話から哲学へ 2 自然哲学の誕生とソフィスト 3 真の知への道ーソクラテス 4 理想主義的なあり方ープラトン 5 現実主義的なあり方ーアリストテレス 6 幸福をめぐる問いーヘレニズムの思想	○哲学とは何か。私たちは自己の人生を有意義なものとするために、どのような生き方をすべきか考え、実践していかなければならない。先哲の思想を学習し、自己の生き方、あり方を考える。 ○ソクラテスに始まるギリシャ思想を通じて、愛知の精神こそが哲学の出発点であることを理解する。

	6	<p>1 学期中間試験</p> <p>第2章 人生における宗教</p> <p>第1節 キリスト教－愛の宗教</p> <p>1 ユダヤ教</p> <p>2 イエスの思想</p> <p>3 世界宗教への展開</p> <p>第2節 イスラーム－啓示と戒律の宗教</p> <p>第3節 仏教－智慧と慈悲の宗教</p> <p>1 バラモン教</p> <p>2 仏陀の思想</p> <p>3 仏教のその後の展開</p> <p>第3章 人生の知恵</p> <p>1 孔子と儒家の思想</p> <p>2 儒教の展開</p> <p>3 道家の思想</p>	<p>○「原罪」と「救い主による贖罪」、「復活信仰」など、キリスト教の基本的な考え方について理解する。</p> <p>○イスラームの基本的な考え方や理念について学び、キリスト教やユダヤ教徒の類似点や相違について理解する。</p> <p>○仏陀の生涯と、その基本的な考え方について理解する。</p> <p>○孔子の思想の中心概念である「仁」と「礼」について理解し、現代生活においてこれらを実践することの意義について考える。</p> <p>○孔子が目指した理想的な社会について理解し、現代社会においても政治に求められる道德の普遍性について考える。</p>
	7	1 学期期末試験	
<p>【課題・提出物】</p> <p>中間・期末試験後にノート提出（配布プリントの確認を含む）</p>			
<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績</p> <p>教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点（1学期のみ30%）</p> <p>授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。</p> <p>課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。</p>			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	8	夏期進学補習	
	9	<p>第3編 現代社会と倫理</p> <p>第1章 現代の倫理的課題</p> <p>第2章 現代に生きる人間の倫理</p> <p>第1節 人間の尊厳</p>	<p>○人間尊重の光と影を見据えながら、真の意味での人間の尊厳について考え、理解する。</p>

	<p>1 自己肯定の精神 2 宗教観の転換 3 人間の偉大と限界</p> <p>第2節 自然や科学技術と人間とのかかわり</p> <p>1 自然への目と科学的なものの見方 2 事実と経験の尊重 3 理性の光</p> <p>第3節 民主社会における人間のあり方</p> <p>1 民主社会の原理 2 人権思想の展開</p> <p>第4節 自己実現と幸福</p> <p>1 人格の尊重と自由 2 自己実現と自由 3 幸福と功利 4 創造的知性と幸福</p> <p>第5節 個人と社会とのかかわり</p> <p>1 人間性の回復を求めて－社会主義 2 人間存在の地平－実存主義 3 他者の尊重 4 社会参加と他者への奉仕</p> <p style="text-align: center;">2 学期中間試験</p> <p>第6節 現代における理性の問題</p> <p>1 生命への畏敬 2 理性主義の見なおし 3 言語論的展開 4 科学観の転換</p>	<p>○モンテーニュやパスカルの思想を通して、モラリストが後の思想に与えた影響を理解する。</p> <p>○ベーコン、デカルトの思想を正しく理解する。</p> <p>○近代科学が成立する背景にルネサンスや宗教改革が大きな役割を果たしていることを理解する。</p> <p>○ホッブズ・ロック・ルソーの社会契約の違いを理解する。</p> <p>○カント・ヘーゲル・功利主義、プラグマティズムの思想を手がかりに、自己実現と幸福について考え、理解する。</p> <p>○マルクス・エンゲルスの思想を、それ以前の社会主義思想と比較することで、その内容を考察し、理解する。</p> <p>○先哲の思想を手がかりに、個人のあり方と社会との関わりについて考える。</p> <p>○ウィトゲンシュタインの思想を通して、分析哲学が近代の人間観・世界観に与えた影響を理解する。</p>
<p>11</p>	<p>第4編 国際社会に生きる日本人の自覚</p> <p>第1章 日本の風土と外来思想の受容</p> <p>第1節 日本の風土と伝統</p> <p>1 日本の風土と人々の生活 2 古代の人々の考え方</p>	<p>○我々の生きている日本という風土が、人と自然の関わりにおいて持つ特殊性について理解する。</p> <p>○日本人として、伝統的文化を振り返りながら、そこに込められた人々の知恵を自覚する。</p>

	<p>第2節 仏教の伝来と隆盛</p> <p>1 仏教の移入ー古代仏教の思想</p> <p>2 仏教の土着化ー鎌倉仏教の思想</p> <p>第3節 儒教の日本化</p> <p>1 儒教の伝来と朱子学</p> <p>2 陽明学</p> <p>3 古学</p> <p>12 第4節 日本文化と国学</p> <p>1 古典美の再発見</p> <p>2 国学</p> <p>第5節 近世庶民の思想</p> <p>1 都市庶民の思想</p> <p>2 農民の思想</p> <p>2学期期末試験</p>	<p>○最澄・空海の思想の相違点と類似点を正しく理解する。</p> <p>○平安仏教と鎌倉仏教の違いを考察し、正しく理解する。</p> <p>○中国で生まれた儒教が、外来思想として移入し、その後江戸時代に儒学として日本化され、現代の生活に影響を与えていることを正しく理解する。</p>	
	<p>【課題・提出物】</p> <p>中間・期末試験後にノート提出（配布プリントの確認を含む）</p>		
	<p>【第2学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績</p> <p>教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点（20%以内）</p> <p>授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。</p> <p>課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。</p>		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	<p>冬期進学補習・共通テスト対策講座</p> <p>第6節 西洋近代思想の受容</p> <p>1 西洋文明との接触</p> <p>2 啓蒙思想と民権論</p> <p>3 キリスト教の受容</p> <p>4 国家主義の高まりと社会主義</p> <p>5 近代的自我の成立</p> <p>6 近代日本哲学の成立</p>	<p>○共通テスト・二次対策へ向けて傾向と分析を行い、時事問題を各自まとめる。</p> <p>○各自受験校の過去問題等を自己分析し、傾向と対策を図る。</p>
	2	7 近代日本の思想傾向への反省	
	3	第2章 現代の日本と日本人としての自覚	

<p>【課題・提出物】 特になし</p>
<p>【第3学期の評価方法】</p> <p>①学習態度の平常点(20%以内) 授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。 課題の提出状況(期限の遵守・課題の中身)、確認テスト等の成績を評価する。</p>
<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>総合評価は、学期末ごとに行う。総合成績には平常点が含まれる。</p> <p>○平常点は以下を踏まえて、20%以内とする。(1学期のみ30%)</p> <p>①倫理に対する興味と関心 ②授業に対する意欲と関心、取り組み ③課題等への取り組み(宿題等) ④年数回(各定期試験後)のノート提出(板書事項・配布プリントの確認)</p>

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	倫理に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを自分の言葉で明らかにすることができる。	○授業時の様子・取り組み・態度 ○授業ノート
思考・判断	先入観にとらわれず、公平・公正な立場から物事を考察していくことができる。	○授業時の様子・取り組み・態度 ○授業ノート ○定期試験
技能・表現	授業で得た知識をもとに、現実の事象を倫理的に解き明かすことができる。	○授業時の様子・取り組み・態度 ○定期試験
知識・理解	授業内容を適切に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。	○確認テスト(不定期に実施) ○定期試験

4. 学習サポート(事前・事後学習等について)

自分でどんどん学習を進めて(予習をして)授業に臨み、復習をその日のうちにしっかり行う習慣を心掛けてほしい。

公民科は暗記科目だと考えている人も多いと思うが、倫理は、過去に生きた人々の思想を知るだけではない。語句の暗記だけでなく、生まれ育った背景などにも関心を抱き、自分だったらどうだろうかかと想像してみしてほしい。理解を深めるために、授業にとどまらず、わかりにくいところがあれば、どんどん質問に来てほしい。

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
物理	4 + 特指	3	Ⅱコース理系

教科書名 改訂 物理 (東京書籍)

副教材名 ニューグローバル物理 (東京書籍)

共通テスト直前演習 (ラーンズ) 共通テスト実践パック V (駿台文庫)

1. 教科目標

1. 物理に対する興味関心を高め、物理の基礎的な考え方を身に付ける。
2. 大学に合格するだけでなく、大学での学習・研究の基礎となる力を身に付ける。
3. 生涯にわたり必要となる科学的な知識・思考力を身に付ける。

学習した基本的な原理・法則を用いて、身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、また、物理に関わる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力と態度を身に付ける。そのために、原理や法則を単に暗記するのではなく、それらを理解させることを目的とし、法則の導出の過程を自ら探求し考える。

また、物理現象を理解するにあたり、授業を聞くだけでなく、自らの考えを自分の言葉で表現する機会を大切にし、科学的な思考力を言語表現力とともに高める。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4	3 光の性質	1 光の進み方	反射・屈折の法則について理解する。
			2 光の性質	分散・散乱・偏光について理解する。
			3 レンズと鏡面鏡	レンズの性質について学ぶ。
			4 光の回折と干渉	ヤングの干渉、回折格子、薄膜による干渉について理解する。
	5	1 電場	1 静電気力	クーロンの法則について学ぶ。
			2 電場	電界の概念を理解し、電界の合成や電界から電荷が受ける力について学ぶ。
			1 学期中間試験	
			3 電位	電位の概念を理解し、点電荷による電位や一様な電界における電位について理解する。
	6	2 電流	4 コンデンサー	コンデンサーが充電する電荷、たくわえるエネルギーについて学ぶ。 コンデンサーの接続について学ぶ。
			1 電流	電流の定義やオームの法則の復習をする。
2 直流回路			キルヒホッフの法則を用いて複雑な回路について解析をする。	
3 非線形抵抗			電球などの非線形抵抗について理解する。	
1 学期期末試験				
【課題・提出物】				
・確認テストおよびALリフレクションシート ・ニューグローバル物理				
【第1学期の評価方法】				
定期試験 + 平常点 (ニューグローバル物理の取り組み、授業に対する意欲・積極性)				

	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	7	3 電流と磁場 1 磁気力と磁界 2 電流がつくる磁場 3 電流が磁場から受ける力 4 ローレンツ力	電場と比較しながら磁場を理解する。 電流のつくる磁界のようすを学ぶ。 磁界が電流におよぼす力について学ぶ。 運動する荷電粒子が磁場から受ける力について理解する。	
	8	4 電磁誘導と電磁波 1 電磁誘導の法則 2 磁界中を運動する導体の棒 3 自己誘導と相互誘導 4 交流 5 電気振動と電磁波	ファラデーの電磁誘導の法則を理解する。 磁界中を運動する導体棒に生じる誘導起電力について理解する。 自己誘導, 相互誘導, コイルがたくわえるエネルギーについて理解する。 交流が発生する仕組みを電磁誘導の法則から理解する。 交流における抵抗, コンデンサー, コイルのはたらきについて理解する。 振動回路, 共振, 電磁波の発生とその性質について理解する。	
	9	1 電子と光 1 電子の電荷と質量 2 光の粒子性 3 X線 4 粒子の波動性	陰極線の性質について理解する。 ミリカンの実験について理解する。 光電効果について理解し, 光子仮説について考える。 X線の波動性と粒子性について理解する。 波動と粒子の二重性について理解する。	
	10	2 原子・原子核素粒子 1 原子モデル 2 放射線と原子核 3 原子核反応 4 素粒子と宇宙	ボーアの原子モデルから量子条件について理解する。 放射線の性質と原子核の崩壊について理解する。 質量とエネルギーの等価性について理解する。 核分裂と核融合について理解する。 素粒子の分類, 性質について理解する。	
		11	2学期中間試験 ◆ 問題演習	一般入試に向け, 実践問題演習を行う。 大学入学共通テストに向け, 実践問題演習を行う。
		12	2学期期末試験 入試問題実践演習	国公立大学入試に向け, 入試問題演習を行う。
		【課題・提出物】 ・確認テストおよびALリフレクションシート ・ニューグローバル物理 ・夏期休業中課題		

【第2学期の評価方法】 定期試験 + 平常点 (課題への取り組み, 授業に対する意欲・積極性)			
月	学習内容	学習のねらい	
3 学 期	1	大学入学共通テスト対策演習	大学入学共通テストに向け, 実践演習を行う。
	2	国公立2次試験・私立大入試対策演習	入試に向けて問題演習を行う。
【課題・提出物】 ・確認テストおよびALリフレクションシート ・冬期休業中課題			
【第3学期の評価方法】 定期試験 + 平常点 (課題への取り組み, 授業に対する意欲・積極性)			
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験 + 平常点 (課題への取り組み, 授業に対する意欲・積極性)			

3. 評価の観点, 内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	・自然現象に関心をもち, 科学的な見方をしているか。 ・授業に意欲的に参加し, 論理的に探究しようとする態度が見えるか。	学習活動への参加の仕方 や態度 演習プリントへの取り組み
思考・判断	・さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し, その本質を原理や法則から説明できるか。	グループ活動への取り組み 定期試験演習プリント
技能・表現	・グループ活動(AL)において, 物理の法則や原理, 課題の解法についての的確に表現する方法を習得しているか。 ・課題や実験のレポートにおいて, 的確に表現する方法を習得しているか。	ALの振り返りシート 定期試験
知識・理解	・学習活動を通して, さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。 ・自然現象を定量的に考察するため, 物理的な概念や法則を正しく理解できたか。	・定期考査 ・確認テスト

4. 学習サポート

<p>1. 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち, その法則性について考える態度を身につけましょう。</p> <p>2. 物理法則の導出過程を大切に, 論理的な思考力を高めよう。</p> <p>3. クループ活動・討論をしながら, 学び合い・教え合う姿勢を身につけましょう。</p> <p>4. 繰り返し演習に取り組み, 徹底して基礎を定着させましょう。</p> <p><定期試験に向けて></p> <p>1. 演習プリントで基礎の確認。(教科書, 授業プリントの見直し)</p> <p>2. ニューグローバル物理を2~3周。</p> <p><模試に向けて></p> <p>1. ニューグローバル物理でしっかり復習。</p> <p>2. 過去問題で実践演習。テスト形式で行い, 自己採点をして解き直し。</p>
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
化 学	4	3	理系クラス

教科書名 化学(実教出版)

副教材名 ビーライン化学(第一学習社) 進研共通テスト直前演習 化学

1. 科目目標

化学的な物事、現象に関する基本的な原理、法則、語句の意味を理解し、身の回りの物事、現象を化学的に探求する方法を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	3章 無機物質 1節 周期表 1 周期表と元素の分類 2節 非金属元素 1 水素と貴ガス 2 ハロゲンとその化合物 3 酸素, 硫黄とその化合物 4 窒素, リンとその化合物 5 炭素, ケイ素とその化合物	<ul style="list-style-type: none"> ・周期表の構成と単体の性質について理解する。 メンデレーエフの功績について学習する。 ・各族ごとの単体と代表的な化合物の性質について学習する。 ・気体の製法および性質について学習する。 ・工業的製法について学習する。 反応の仕組み、製造工程、これに伴った生産量の算出について学習する。
	5	3節 金属元素 1 アルカリ金属とその化合物 2 アルカリ土類金属とその化合物 3 1, 2族以外の典型金属元素とその化合物 4 遷移元素とその化合物 5 金属イオンの分離と確認 1学期中間試験 (20時間) 4節 無機物質と人間生活 1 金属の利用 2 無機物質の利用 3 無機物質と生体	<ul style="list-style-type: none"> ・各族ごとの単体と代表的な化合物の性質について学習する。 ・両性元素について学習する。 ・遷移元素の特徴について学習する。 ・金属イオンの定性反応を理解し混合溶液からの分離について学習する。 ・軽金属と重金属, 卑金属と貴金属, 金属の製錬について学習する。 ・ケイ酸塩工業(窯業)について学習する。

	<p>4章 有機化合物</p> <p>1節 有機化合物の特徴と構造</p> <p>1 有機化合物の特徴</p> <p>2節 脂肪族炭化水素</p> <p>1 飽和炭化水素</p> <p>2 不飽和炭化水素</p> <p>1 学期期末試験 (28時間)</p> <p>夏期進学講座</p> <p>3節 酸素を含む脂肪族化合物</p> <p>1 アルコールとエーテル</p> <p>2 アルデヒドとケトン</p> <p>3 カルボン酸とエステル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・官能基による有機化合物の分類。表し方を学習する。 ・アルカンの構造式を書き構造異性体を理解置換反応を学習する。 ・アルケンの構造式を書き幾何異性体を理解する。 ・アルケン, アルキンの付加反応を学習する。 ・代表的な有機化合物を暗記し利用できるようにする。 ・アルコールを中心とした有機化合物の系統図を書ける力を身につける。 ・エステルの反応機構を理解する。 ・油脂の構造について学習する。 	
	<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート 		
	<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>① 定期試験の成績(70%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の確認とともに、化学的思考について問う問題も出題する。 <p>② 学習態度等の平常点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の学習過程で評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。 		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<p>1節 有機化合物の特徴と構造</p> <p>2 有機化合物の構造式の決定</p> <p>4節 芳香族化合物</p> <p>1 芳香族炭化水素</p> <p>2 酸素を含む芳香族化合物</p> <p>3 窒素を含む芳香族化合物</p> <p>4 混合物の分離</p> <p>5節 有機化合物と人間生活</p> <p>1 エネルギーの利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・燃烧分析の実験操作、未知試料の有機化合物の構造決定について学習する。 ・ベンゼンを中心とする芳香族炭化水素の構造および性質、反応性について学習する。 ・元素分析による有機化合物の構造決定について学習する。 ・芳香族化合物の混合物の分離について学習する。 ・薬理作用、生薬、人工薬品としてのアスピリンについて学習する。

2 学 期	10	<p>2 洗剤</p> <p>3 染料と染色</p> <p>4 医薬品</p> <p>5 有機化合物と生体</p> <p>2学期中間試験 (24時間)</p> <p>5章 高分子化合物</p> <p>1節 高分子化合物</p> <p>1 高分子化合物の分類と特徴</p> <p>2節 天然高分子化合物</p> <p>1 糖</p> <p>2 タンパク質</p> <p>3 核酸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・染料と顔料, 天然染料と合成染料, アゾ染料について学習する。 ・界面活性剤と合成洗剤について学習する。親水性、親油性基について確認し、汚れが落ちる仕組みについて理解する。 ・有機高分子と無機高分子の違いを理解する。 ・天然高分子と合成高分子について概要を理解する。 ・単糖類、二糖類と六炭糖と五炭糖・デンプン、グリコーゲン・アミノ酸の性質, 反応 タンパク質の種類, 構造, 反応について理解する。 ・核酸の構成について理解する。
	11	<p>3節 合成高分子化合物</p> <p>1 合成高分子化合物の分類</p> <p>2 合成繊維</p> <p>3 合成樹脂(プラスチック)</p> <p>4 機能性高分子化合物</p> <p>5 ゴム</p> <p>4節 高分子化合物と人間生活</p> <p>1 繊維</p> <p>2 機能性高分子</p> <p>3 資源の再利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・合成方法の違いと生成物について理解し分類できる力を身につける。 ・プラスチックの分類について理解する。 ・代表的な機能性高分子と性質について理解する。(イオン交換樹脂、導電性高分子など) ・天然ゴム, 合成ゴムとその性質について比較しながら理解する。 ・天然繊維と化学繊維について整理する。 ・繊維強化プラスチック、接着剤・リユース、マテリアルリサイクルについて理解する。
	12	<p>2学期期末試験 (26時間)</p> <p>共通テスト対策演習</p> <p>一般試験、二次試験対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元別、時間をはかりながら、実践的な演習を行う。
	<p>【課題・提出物】</p> <p>・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート ・夏季休業中の課題</p>		
<p>【第2学期の評価方法】</p> <p>① 定期試験の成績(70%)</p> <p>・知識・理解の確認とともに、化学的思考について問う問題も出題する。</p>			

	② 学習態度等の平常点 ・授業時の学習過程で評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。	
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	共通テスト対策演習 一般試験、二次試験対策 ・時間をはかりながら、実践的な演習を行う。
		【課題・提出物】 ・授業中に配布する演習プリント
		【第3学期の評価方法】 ① 学習態度等の平常点 ・授業時の学習過程で評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。
【年間の学習状況の評価方法】 各学期の成績を総合して評価する。		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。 ・講義式、実験式いずれの授業においても集中力を保つ。 ・授業で得た結果を基に発展的な興味をもって自主的活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子 ・授業ノート
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 ・授業内容について科学的な捉え方ができる。 ・授業の成果をいかして社会や生活との関連を考えられる。 ・発展的な内容についても思考を展開させられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子 ・授業ノート ・小テスト ・定期テスト
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 ・操作の意味をよく理解し、実技のレベルが的確である。 ・実験結果に対する考察が十分であり、その内容を適切に伝達できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子 ・授業ノート ・小テスト ・定期テスト
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・学んだ内容が関連付けて整理され定着している。 ・知識を用いて発展的な応用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子 ・小テスト ・定期テスト

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

随時、学習相談を実施しているので、つまづいている箇所があれば早めに質問しに来てほしい。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
生物	4 + 特指	3 学年	Ⅱ コース理系

教科書名 生物 (啓林館)

副教材名 スクエア最新図説 (第一学習社) セミナー生物 (第一学習社)

1. 科目目標

<p><u>1. 「生物」の面白さを知る</u></p> <p>「生物」という科目では、生命現象のしくみや生命同士のつながり、生命の歴史について学ぶ。これらは、生命のひとつである「自分自身」を知ること・理解することであり、考えることだ。生命の神秘さ、面白さを実感する。</p> <p><u>2. 学力をつける</u></p> <p>大学入学共通テスト、国公立大学個別試験、私立大学一般試験に対応できる学力を構築する。</p> <p><u>3. 客観的な視点を育む</u></p> <p>「生物」の学びを通して、「自分自身」や「自分自身をとりまく世界」を客観的に理解する視点を育む。</p>
--

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第2部 生殖と発生 第3章 植物の生殖と発生 1. 被子植物の受精 2. 胚と種子形成 3. 植物の器官形成	植物の配偶子形成・受精と初期発生の過程を理解する。
		第3部 生物の環境応答 第1章 刺激の受容と反応 1. 刺激の受容 2. 神経 3. 神経系 4. 効果器	ニューロン(神経細胞)の基本的な構造とそのはたらきを理解する。次の、受容器で受け取られた刺激(情報)が、神経系を介して、効果器へと至る経路を学習する。
	5	1 学期中間試験 [25 時間]	
	6	第2章 動物の行動 1. 生得的行動 2. 学習行動	
		第3章 植物の環境応答 1. 植物の一生と植物ホルモン 2. 発芽と成長の環境応答 3. 花芽形成の環境応答 4. 花や果実の成長と老化	植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解する、そのうえで、環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が発与していることを学習する。

		5. 光受容体と植物ホルモンのはたらき	
		1 学期期末試験 [20 時間]	
		【課題・提出物】 ・セミナー生物 (定期試験範囲、月別範囲)	
		【第1学期の評価方法】	
		① 定期試験の成績 (70%) ② 学習態度等の平常点 (30%)	
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	第5部 生態と環境 第1章 個体群と生物群集 1. 個体群とその変動 2. 種内関係 3. 種間の関係 4. 生物群集と構造 第2章 生態系 1. 生態系と物質生産 2. 生態系と生物多様性	個体群や生物群集について、それぞれの特徴を学習する。特にそれぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。また、生態系における物質生産についても学習する。さらに、生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識させる。
		第4部 生物の進化と系統 第1章 生物の進化 1. 生命の起源と生命の変遷 2. 生物界の変遷と地球環境の変化 3. 人類の起源と進化 第2章 進化とそのしくみ 1. 進化の証拠 2. 生物の変異と進化	生命の起源および生物の変遷を学習する。その際、生命の誕生や生物の変遷は、地球環境の変化と密接に関係していることを理解する。 生物の種類は多様であるが、それらが系統によって分類できることを理解する。その際、形態的な特徴にもとづいた分類ばかりでなく、近年では、DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列などの分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについても学ぶ。
		2 学期中間試験 [25 時間]	
	11	第3章 生物の系統 1. 生物の分類と系統 2. 界とドメイン 3. 細菌ドメイン 4. 古細菌ドメイン 5. 真核ドメイン	
	12	大学入学共通テストに向けた演習 プレ問題、過去問題、演習	
			2 学期期末試験 [30 時間]
		【課題・提出物】 ・セミナー生物 (定期試験範囲、月別範囲)	
		【第2学期の評価方法】	
		① 定期試験の成績 (80%) ② 学習態度等の平常点 (20%)	

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	大学入学共通テストに向けた演習 プレ問題、過去問題、演習 国公立大学個別試験に向けた演習 3学期授業時間 [6時間] 年間実授業時間 [106時間]	

【年間の学習状況の評価方法】

- ①定期試験の成績 (80%) ②平常点 (20%)

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心を持ち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	・授業時の様子 ・授業ノート
思考・判断	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を化学的にとらえられる。	・授業時の様子 ・授業ノート ・定期テスト
技能・表現	科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果を導き出すことができる。また、それを表現することができる。	・授業時の様子 ・定期テスト
知識・理解	・生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 ・自然界の様々な事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけられている。	・小テスト ・定期テスト

4. 学習サポート (事前・事後学習等について)

- ・随時、学習相談を実施していますので、理解の難しい所、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。